

平成25年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成24年度対象)

平成25年11月

深谷市教育委員会

目 次

1	趣 旨	1 頁
2	点検評価の目的	1 頁
3	点検評価の対象及び方法	2 頁
4	深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5	点検評価表及び重点施策評価表	
	I 社会を生き抜く力の育成	
(1)	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	6 頁
(3)	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	10 頁
(4)	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	14 頁
(5)	高い志をもつキャリア教育の推進	16 頁
(6)	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	18 頁
	II たくましく生きるための心と体の育成	
(1)	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	20 頁
(2)	いじめ・不登校の防止	22 頁
(3)	生徒指導の充実	24 頁
(4)	人権を尊重した教育の推進	26 頁
(5)	健康の保持増進	28 頁
(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	30 頁
	III 信頼される学校教育の推進	
(1)	信頼される教職員の育成	32 頁
(2)	子どもたちの安心・安全の確保	34 頁
(3)	学習環境の整備・充実	36 頁
	IV 家庭・地域の教育力の向上	
(1)	家庭の教育力の向上	38 頁
(2)	地域の教育力の向上	40 頁

V	生涯を通じた学習活動の推進	
(1)	学習機会の提供と学習活動の支援	42頁
(2)	活動施設の整備・充実	44頁
(3)	図書館の整備・充実	46頁
VI	深谷らしい文化の創造	
(1)	渋沢栄一翁の顕彰	48頁
(2)	伝統文化の保存・継承と活用	50頁
(3)	文化・芸術活動の活性化	52頁
VII	生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
(1)	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	54頁
(2)	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	56頁
6	結びに	58頁
7	資料	
(1)	深谷市教育振興基本計画 概要版	61頁
(2)	平成24年度 深谷市教育委員会重点施策	64頁

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

深谷市教育委員会では、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に基づいて様々な教育施策を展開しています。

この深谷市教育振興基本計画に位置づけられた7つの基本目標（大項目）にぶらさがる25施策（中項目）を評価単位として、平成24年度の取組について点検評価を実施しました。

また、平成23年度までの点検評価では対象としていなかった当該年度の各施策における重点施策についても、重点施策評価表として掲げ、点検評価の対象としています。

点検評価表の中で、総合評価は、「SABC」評価とし、区別の目安として、

- S：計画以上に進んでいる
- A：ほぼ計画通りに進んでいる。
- B：あまり進んでいない。
- C：まったく進んでいない。

としました。

この区別の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成24年度の重点施策及び評価を示しています。

4 深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課	
		重点施策評価表作成課	重点施策評価表作成課
I 社会を生き抜く力の育成	(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課
	(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課
	(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課
II たくましく生きるための心と体の育成	(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(2) いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課
	(3) 生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課
	(4) 人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課
	(5) 健康の保持増進	学校教育課	教育総務課 教育施設課
	(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課
III 信頼される学校教育の推進	(1) 信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課
	(2) 子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課
	(3) 学習環境の整備・充実	教育総務課	教育施設課
IV 家庭・地域の教育力の向上	(1) 家庭の教育力の向上	生涯学習課	生涯学習課
	(2) 地域の教育力の向上	生涯学習課	生涯学習課
V 生涯を通じた学習活動の推進	(1) 学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習課	生涯学習課
	(2) 活動施設の整備・充実	生涯学習課	教育施設課 生涯学習課
	(3) 図書館の整備・充実	図書館	図書館
VI 深谷らしい文化の創造	(1) 洪沢栄一翁の顕彰	生涯学習課	生涯学習課
	(2) 伝統文化の保存・継承と活用	生涯学習課	生涯学習課
	(3) 文化・芸術活動の活性化	生涯学習課	生涯学習課
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	(1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習課	生涯学習課
	(2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習課	生涯学習課

5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成		I-1						
施策名	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	点検評価表作成課	学校教育課					
施策の方向性	<p>○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。</p> <p>○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進します。</p> <p>○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組みます。</p>							
施策に関連する主な取組	○質の高い幼児教育の推進	○幼保一体化への対応						
	○幼稚園教員や保育士の資質向上							
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進							
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実							
指標名	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%					
		現状値 (平成23年度)	89%		➡	目標値 (平成29年度)	95%	
平成24年度重点施策	<p>○幼・保・小・中連携協議会の実施</p> <p>○幼保一体化への適切な対応</p>							
平成24年度実績	<p>○質の高い幼児教育の推進・幼稚園教諭や保育士の資質向上 ・幼稚園教諭研修会（4月、7月、8月、2月、3月）を実施した。</p> <p>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進 ・幼・保・小・中連絡協議会（7月、2月）を実施した。</p> <p>○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実 ・子育て広場・・・全体会3回と幼稚園会場24回（8園×3回）を開催した。</p> <p>○幼保一体化への対応 ・幼稚園のあり方について、教育委員会内部で現状分析及び課題抽出などの調査研究を行った。 ・保育施策を担当する部署との意見交換を行った。</p>							
総合評価	S	<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>						
課題	<p>・幼稚園教育の質の向上と安定を図る。</p> <p>・全園(12園)で子育て広場を開催する。</p>							
評価コメント	<p>子育てに不安を持つ保護者が増加しているなか、子育て広場の実施は、普段あまり聞くことのできない大学教授の講演を聞いたり、教育研究所の専門員や臨床心理士より身近な子育ての講話を聞くことで、悩みの解消や子育て支援のための一助になっていると考えている。昨年の反省を踏まえ、会場園の協力を得て保護者のニーズを入れながら幼稚園教育のよさを取り入れて活動したところ、子育てひろば事業に満足した人の割合や、幼稚園が好きだと答えた人の割合が、昨年度より増えた。これは、家庭との連携を図るとともに幼稚園教育の充実に努め、教育の質の向上や現代社会の課題に対応した教育の推進を図ることができたためといえる。以上のことから、総合評価は「S」とする。</p>							
意見・提言	<p>・「子育て広場」は、参加者の99%以上から評価をいただいております、大変素晴らしい取組である。</p> <p>・幼稚園については、施設・設備面での充実が大事になると思うので、今後の動向に注目したい。</p> <p>・幼稚園の正規職員の不足については、少子化による園児の減少や幼保一体化を念頭に、対策を考える必要がある。</p>							

重点施策評価表

重点施策名	幼・保・小・中連携協議会の実施		担当課	学校教育課
概要	0歳から15歳までの子どもを一貫して育て、この時期の教育について、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼保小中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。			
平成24年度の実績	○年2回実施 全体研修会及分科会実施(市内中学校区10ブロックに分かれ、幼・保・小・中連携について協議) ・第1回 平成24年8月3日(金) 全体会:特別支援教育体制整備事業について、事例発表「なめらかな接続のための幼・保・小・中連携」 分科会:各園、学校ごとの目指す子ども像の共通理解と支援について(スローガンづくりと身に付けさせたい力) ・第2回 平成25年2月27日(水) 全体会:特別支援教育体制整備事業モデル市成果発表 分科会:今年度の幼保小中連携の成果と課題・来年度の中学校区幼保小中連携の計画について			
		指標名	実績値	指標別コメント
	実施回数		2回	なめらかな接続のため、年度の前半(夏季休業中)、後半(年度末)に協議会を実施する。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	0歳から15歳までの子どもを一貫して育てるため幼・保・小・中連携会議を持つことにより、地域で育つ子どもの教育や保育について共通理解を図ることが出来た。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	幼保一体化への適切な対応		担当課	教育総務課
概要	幼稚園と保育園の機能を一体化する「総合こども園(仮称)※」について、国の動向を注視しつつ、適切に対応していく。 ※本重点施策の概要にある「総合こども園(仮称)」は、法律の成立により「認定こども園」に置き換える。			
平成24年度の実績	・幼稚園のあり方について、教育委員会内部で現状分析及び課題抽出などの調査研究を行った。 ・保育施策を担当する部署との意見交換を行った。 【国の動向】平成24年6月、国は「総合こども園」の創設を断念し、当時の認定こども園制度を拡充する形で平成24年8月に子ども子育て関連3法が改正された。その改正ポイントの一つとして、認定こども園制度の改善が図られている。なお、平成27年度に子ども子育て新制度がスタートする予定。			
		指標名	実績値	指標別コメント
	市立幼稚園の数		12園	現在、市立幼稚園は、市内11地区に設置されている。
	園舎	築30年以上の園舎 旧耐震基準の園舎	8園 7園	園舎は12園中8園が築30年以上を経過し、7園が旧耐震基準の園舎である。
園児数	平成20年5月1日の園児数 平成24年5月1日の園児数	788人 652人	園児数は、平成20年と平成24年を比較して136人の減少となっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	3	市立幼稚園では、現在、園舎の老朽化・非耐震化、園児数の減少、正規職員の不足などの課題を抱えている。これらの課題を踏まえ、今後の市立幼稚園のあり方について、幼保一体化を念頭に、具体的な方針及びスケジュールを作成し、市立幼稚園の方向性を決定していきたいと考えていることから、評価を「拡充・重点化」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		未来を切り拓くための確かな学力の育成				点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。								
施策に関連する 主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進				○きめ細やかで質の高い指導の充実				
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進				○教育研究所の資源活用				
		○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善								
		○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進								
指標名		埼玉県小・中学校学習状況調査								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値		
	市内全小学校5年、 中学校2年のペー パーテストの平均正 答率(%)	市平均	76.4%(小5) 63.5%(中2)	75.1%(小5) 72.3%(中2)						
		県平均	75.3%(小5) 62.0%(中2)	74.6%(小5) 70.1%(中2)						
		現状値 (平成23年度)	県平均をやや上回る			目標値 (平成29年度)	県平均正答率を2ポイント以上、上回る			
平成24年度 重点施策		○中学生補習学習運営事業 ○こころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進 ○学力向上推進事業 ○少人数指導事業								
平成24年度 実績		○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全10中学校で実施し、参加者276名 ・延べ233名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生16名、中学生 8名、合計24名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生21名、中学生23名、合計44名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施 ・モデル校実施 小学校: 7校 中学校: 4校 ・参加児童生徒数 小学校:594名 中学校:527名 ・実施時期 第1回 8月下旬 第2回 10月上旬 ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 市内全19校にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。								
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題		平成25年度は、市内すべての小・中学校で深谷市チャレンジを実施予定。そのため、採点者の確保、データ処理システムの整備が今後の課題である。								
評価コメント		・平成24年度は、学力向上推進授業において深谷市チャレンジをモデル校で実施し、児童生徒の学習意欲の向上が図れた。 ・小・中学校で行った埼玉県小・中学校学習状況調査では、県平均を上回ることができた。 ・アシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートの配置により、担任に余裕が生まれ、児童一人一人に寄り添った教育を進めることができ、教育的効果が大きかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。								
意見・提言		・市の学力は県平均を上回り、学校教育課をはじめ各小・中学校の先生方のきめ細やかな指導の成果がでている。さらに、児童生徒の学力向上にむけて多彩な取組を行っており評価できる。 ・安定した大学生ボランティアの確保について、募集方法を工夫してほしい。								

重点施策評価表

重点施策名	中学生補習学習運営事業		担当課	学校教育課
概要	大学生ボランティアによるステップアップレッスンを推進し、生徒の基礎学力の向上を図る。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生の中で、学習に不安を感じている生徒の学力を保障するために全10中学校で中学生補習学習(ステップアップレッスン)を実施した。 ・276名の参加者のうち、通塾していない生徒が、141名(参加者の51.1%)であった。 ・延べ233名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 (実人数としては、埼玉工業大学32名・その他の大学27名) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	補習実施回数	132回	学習指導要領改訂により、時間確保が難しくなったため、目標の回数(150回)が実施できなかった。	
	1回あたりの参加生徒数の平均	19.1人	通塾していない学習に不安を感じている生徒の学習支援につながった。	
補習学習1回当たりのコスト	6,862円	安定した大学生ボランティアの確保に努める必要がある。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>中学3年生の中で学習に不安を感じている生徒の学力を保障することが目的である。学びたいと希望した生徒の51.1%が通塾していない生徒であり、その生徒たちへの支援が行われたことにより、意図した成果は十分に達成できたと考える。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策評価表

重点施策名	こころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進		担当課	学校教育課
概要	こころざし深谷塾を実施し、児童生徒の国際性や科学技術への関心・意欲を高める。			
平成24年度 の実績	<p>○こころざし深谷国際塾 国際社会に対する児童生徒の知的好奇心に応えるとともに、日本及び諸外国の伝統や文化等について深い理解をもち、国際社会において信頼され、世界の平和と発展に貢献できるリーダー育成を目的とする。 参加者 小5～中2 小学生16名、中学生8名、合計24名参加 内容 第1日目:英会話体験、国際協力・相互依存に関する講義、ディスカッション等 第2日目:JICA地球ひろば訪問(施設見学、講話等) 第3日目:英語による体験発表会 成果 参加者の意欲が高まり、国際協力・相互依存の必要性についての理解が深まった。最終日は英語による感想発表を行った。小学生には難しい課題であったが、見事にやり遂げた。その後、各学校において全校児童生徒の前で発表を行った。</p> <p>○こころざし深谷科学塾 深谷市内の企業における科学的な体験学習を通して、子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、学力の向上を図ることを目的とする。 参加者 小5～中3 小中学生44名 内容 平成24年8月24日 市内3企業①日東電工(株) 関東工場②古河スカイ(株) 深谷工場③(株)アタゴ 深谷工場を訪問し、製品の原理を科学的に学習した。 成果 参加者の科学技術等に対する興味関心は非常に高く、意欲的に説明を聞いたり、体験したりしていた。参加者の満足度は非常に高かった。(アンケートより)</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		参加希望率(希望者/定員)	103%(72/70)	参加者には事前に課題を提示している。難しい課題にかかわらず、参加者は定員を超えている。また、毎年参加するリピーターもいる。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	毎年、実施内容を見直して、より有意義な活動になるように工夫改善している。今後も更に充実した活動を行い、渋沢栄一翁の志を受け継ぐ次代を担う人材育成に努めていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	学力向上推進事業	担当課	学校教育課
概要	深谷市チャレンジ(算数・数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。		
平成24年度の実績	<p>○深谷市チャレンジ 深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる児童生徒の育成を図ることを目的として実施する。</p> <p>※平成24年度は、市内モデル校(小7校、中4校)で実施。 【対象学年・教科】 小学校第6学年…算数 中学校第3学年…数学、英語 【実施時期】 第1回 8月下旬 第2回 10月上旬 【成果】第2回深谷市チャレンジ実施後の児童生徒アンケート結果より 学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校(算数)88%、中学校(数学)73%、(英語)73%</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	深谷市チャレンジ実施校	37.9%(11/29)	平成24年度は、モデル校で実施。、平成25年度の全校実施100%を目指す。
	深谷市チャレンジ実施後児童生徒アンケート	小学校 80% 中学校 70%	アンケート結果より、「学習に対する意欲が高まった」と回答した児童生徒の割合。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	平成25年度は、市内全小中学校で、深谷市チャレンジを実施する。実施方法等を検討し、児童生徒の学習意欲のさらなる向上に努める。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	少人数指導事業	担当課	学校教育課
概要	各小学校に1名のアシスタントティーチャーを配置し、個に応じたきめ細かな指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図る。また、各小学校に1名の教科支援エキスパートを配置し、小学校から中学校への進学時に生じるいじめや不登校などの増加を未然に防ぐとともに、より専門的な指導により教科指導の充実を図る。		
平成24年度の実績	<p>・アシスタントティーチャーが、主に低学年のチームティーチングを行うことにより、個に応じた学習支援が充実した。さらに、基本的な生活習慣の定着にも効果が現れていると、学校からの意見が寄せられている。</p> <p>・教科支援エキスパートは、主に高学年の音楽科、家庭科の専科授業を実施し、より専門的な学習指導を行うことができた。配置により、担任に余裕が生まれ、児童一人一人に寄り添った教育を進めることができ、教育的効果が大きかったと、学校からの意見が寄せられた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	配置状況	100%	アシスタントティーチャー19人、教科支援エキスパート15人を任用し、市内全19小学校に各1名ずつ配置することができた。
	配置校の活用満足度	100%	アンケート調査の結果、配置による効果は、「大変効果があった」が75%、「効果があった」が25%と各学校からの要望も高い。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	アシスタントティーチャーは主に低学年におけるきめ細かな指導、教科支援エキスパートは主に高学年の専科指導の充実に努めている。各学校からは配置に対する高い満足度と継続の要望が寄せられている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進				点検評価表 作成課		学校教育課	
施策の方向性		○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りをもち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養います。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実します。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。							
施策に関連する 主な取組		○伝統と文化を尊重する教育の推進							
		○国際性を育む教育の推進							
		○小学校段階からの外国語活動の推進							
		○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実							
指標名		生徒の英語学習に対する積極的な態度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%						
		現状値 (平成23年度)		中学生 76%		➡		目標値 (平成29年度)	

平成24年度 重点施策	○国際化教育推進事業 ○教育研究開発(英語教育関係)の推進	
平成24年度 実績	○国際性を育む教育の推進 ・市内各小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・夏休み子ども英会話体験教室を実施し、小学校3～6年生の261名が参加した。 ○小学校段階からの外国語活動の推進 ・教育課程の特例として小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・市内全小・中学校が文部科学省の指定を受け、教育研究開発を行った。 ・深谷市英語教育小中一貫モデルプランを策定し、英語教育の充実を図った。 ○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(4名)を、小学校7校、中学校3校に配置した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	ALTについては、労働派遣契約上の制約で、7月～9月の3ヶ月間、クーリング期間を取らざるを得ない。今後の法改正等を注視していく必要がある。日本語指導を必要とする外国籍児童生徒は増加傾向にあり、日本語指導員を増員する必要が出てきている。	
評価コメント	学校が必要とする外国語指導助手及び日本語指導員を適切に配置することができた。また、ALTの配置や教育研究開発の成果が、中学生の「英語でコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度」に表れている。今後も、更に児童生徒の英語によるコミュニケーション能力向上にむけて取組を推進していく。以上のことから、総合評価は「A」とする。	

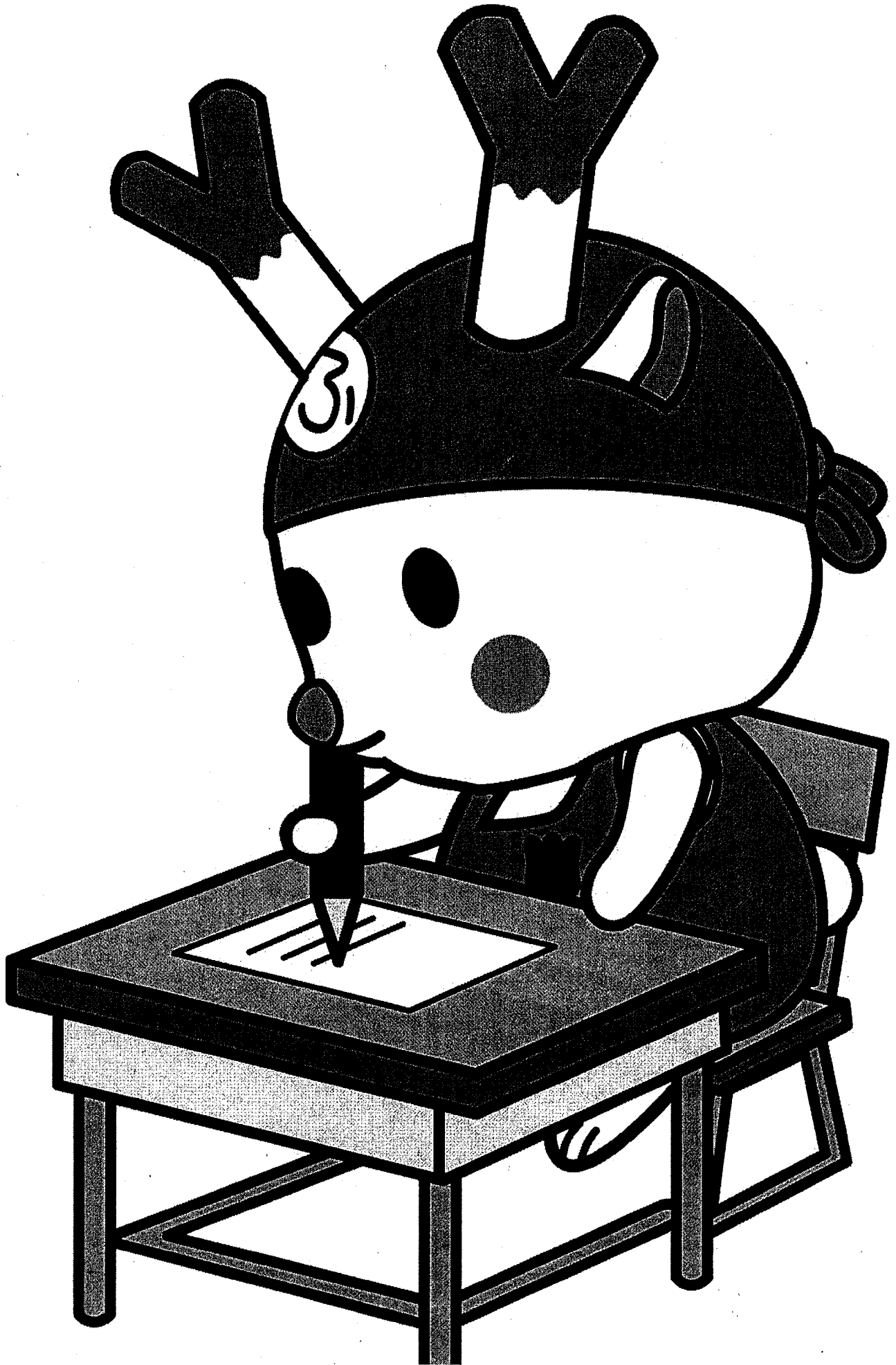
意見・提言	・外国語の学習が楽しいと感じている小学生が94.6%と非常に高い数字となっており、ALTの存在のみならず、学級担任とALTの指導が一体となり実を結んでいると評価できる。 ・ALTの確保は重要であるが、クーリング期間があるために、ALTの数の確保だけではなく、質の確保も難しくなっているのではないかと。 ・質の高い教育を維持していく関係上、クーリングによる3か月間の不在というのは大変危惧される。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し英語教育等の充実を図る。			
平成24年度 の実績	<p>○外国語指導助手の配置</p> <p>採用人数 16名</p> <p>雇用形態 労働派遣契約</p> <p>雇用期間 第1期(平成24年4月～6月) 第2期(平成24年10月～平成25年3月)</p> <p>実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。 ○ 小学校3～6年生は、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、配置した。 ○ 本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が伸びている。 ○ 国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	94.7%	目標値の授業時間は、1日当たり61.2時間(16名分)とする。平成24年度は170日の期間で、9851時間の授業を行った。
		外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	94.6%	学年によって割合は違うが、小学校6年生でも90%近い。全国的なデータと比較すると、深谷市の子どもは英語好きが非常に多い。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(287学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、全ての学校に配置することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術がうまくかみ合っていると言える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	教育研究開発(英語教育関係)の推進		担当課	学校教育課												
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の国際性を育む。															
平成24年度の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定(全国で2例:深谷市・岐阜県多治見市)を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行っている。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 市内全小中学校の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行っている。深谷市の強みは、市内の全小中学校が研究指定を受けていることである。(単一の学校が研究指定を受けても、成果が広がりにくいというケースが多い)</p> <p>○指導法研究会の開催 ・小学校外国語活動指導法集中研究会の実施(平成22年度からの継続事業) 市内全小学校教員を対象として、指導法の研究会を実施している。このことにより、英語に対する苦手意識を克服し、指導技術の向上を図ることができた。参加者の満足度は、ほぼ100%に達している。</p> <p>・中学校英語教育指導法研究会の実施 大学教授等を招いて、最新の英語教育に関する講義を実施している。併せて、英語指導に係るワークショップを行い、市内英語科教員、約35名の指導技術の向上に努めている。</p> <p>・ブロック別授業研究会の実施 市内を数ブロックに分けて、授業研究会を実施した。小・中学校教員が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小中連携を深めることができた。併せて、川本中学校区では、小中学生交流授業を行い、子どもの立場に立って小中の連携と接続の在り方について研究した。</p> <p>○深谷市チャレンジの実施 市内4校(明戸中、豊里中、南中、上柴中)で試行的に実施した。平成25年度は、全ての中学校で実施する。英語に対する関心・意欲を高めることを目的としている。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的とする。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成24年度は、小学生16名、中学生8名、合計24名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</p> <p>○夏休み子ども英会話体験教室の実施 伸びる意欲のある子どもをさらに伸ばすことを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に4日間実施し、平成24年度は、261名が参加した。</p> <table border="1" data-bbox="319 1456 1434 1825"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級ごとのALT配置回数の割合</td> <td>86% (30/35時間)</td> <td>配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。</td> </tr> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合</td> <td>88.3%</td> <td>全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(中1)の割合</td> <td>89.3%</td> <td>小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小中学校の接続がうまくいっていると言える。</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	実績値	指標別コメント	学級ごとのALT配置回数の割合	86% (30/35時間)	配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	88.3%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(中1)の割合	89.3%	小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小中学校の接続がうまくいっていると言える。
指標名	実績値	指標別コメント														
学級ごとのALT配置回数の割合	86% (30/35時間)	配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。														
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	88.3%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。														
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(中1)の割合	89.3%	小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小中学校の接続がうまくいっていると言える。														
担当課評価	評価区分 1	評価コメント 市内全小・中学校が研究指定を受けることによって、成果を全ての学校が共有することができている。このことから、全ての学校の指導力の向上を図ることができている。その結果として、中学校段階で学力向上の兆しが見え始めている。今後も、更に取組を充実させていきたい。														
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)																



基本目標 I 社会を生き抜く力の育成

I-4

施策名	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性	○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成します。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深めます。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進します。		
施策に関連する 主な取組	○科学技術教育の推進 ○情報教育の推進 ○環境教育の推進 ○社会的課題に対応する教育の充実		

指標名	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%					
		現状値 (平成22年度)	84%		➡	目標値 (平成29年度)	100%	

平成24年度 重点施策	○小・中学校ICT整備事業
------------------------	---------------

平成24年度 実績	○科学技術教育の推進 ・全小学校19校に小学校理科支援員を市費で配置し、観察・実験の充実を図った。 ・8月に全小・中学校理科担当教員対象の研修会を実施した。 ・市内小・中学生を対象に「ころざし深谷科学塾」を8月に開催し、市内科学系企業3社を訪問し、体験学習を行った。(公募44名) ○情報教育の推進 ・小学校6校、中学校5校のコンピュータ教室の機器の入替を行った。 ・プロバイダのサーバー内にネット共通のシステムを導入し、市内全小中学校のホームページの更新頻度、アクセス数が飛躍的に向上した。 ・ICTを活用した授業が小中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○環境教育の推進 ・学校緑化を推進するとともに温暖化防止や節電対策として「緑のカーテン」を市内全幼稚園、全小・中学校で実施した。
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---------------------------------------------------------------------

課題	文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していく必要がある。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価コメント	コンピュータ教室、普通教室、職員室にICT機器の整備が、ほぼ計画通りに進んでいる。教職員に対する研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面が増えていることなどから、今後も情報化社会に対応した整備を進めていく。以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

意見・提言	・校務支援システムにより教職員の9割超が負担軽減を感じており、多忙な先生方にとっては大変効果のある取組だと評価できる。 ・小学校理科支援員の市費配置は素晴らしいことである。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校ICT整備事業		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】 ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教員の負担軽減による子どもと向き合う時間を確保する。</p>			
平成24年度 の実績	<p>・小学校6校、中学校5校のコンピュータ教室の機器の入替を行った。 ・プロバイダのサーバー内にネット commons のシステムを導入し、市内全小中学校のホームページの更新頻度、アクセス数が飛躍的に向上した。 ・ICTを活用した授業が小中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ・校務支援システムにより、9割を超える教職員が「成績処理や通知表の作成等の負担が軽減されている」と回答している。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	PC1台あたりの児童生徒数	4.19人/台	コンピュータの台数では、県内40市の中でトップの整備率となっている。	
	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	91.3%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、年々向上している。県は66%である。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>各小・中学校に整備しているコンピュータ等は、平成26年1月にリース契約分が全て終了し、買取による整備のみとなる。文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していく必要がある。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

施策名		高い志をもつキャリア教育の推進				点検評価表作成課		学校教育課	
施策の方向性		○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。 ○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進します。							
施策に関連する主な取組		○発達段階に応じたキャリア教育の充実							
		○小・中・高における「なめらかな接続」の推進							
		○職場体験活動の充実							
指標名		「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	77.0%	81.3%						
		現状値 (平成23年度)	中学生 77%			➡	目標値 (平成29年度)	中学生 85%	

平成24年度 重点施策	○小・中学生のキャリア教育の充実	
平成24年度 実績	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」中学年での「まちたんけん」高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施。 ・産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った) ・中学校1年生での職業調べ、2年生での上級学校調べまたは訪問、3年生での高校説明会への参加といった活動を全校で実施。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を1回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。) ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施(対象を中1から中2に移行中のため7校が実施、実施した中学校では事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それを系統的に整備する必要がある。 ・社会体験チャレンジにおいては、事業所の確保が課題となっている。	
評価コメント	・社会体験チャレンジは、発達段階を考慮して中学2年生で実施した。実施後の生徒や保護者の感想、また、各事業所からのアンケートから、望ましい職業観や勤労観が育成されたことがわかった。 ・成果指標においても、目標値には届かなかったが、現状値を4.3ポイント上回ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・小中一貫教育のカリキュラム、1/2成人式などの市独自の取組が充実している。 ・将来を意識させるという意味で、社会体験チャレンジ事業を行うことは素晴らしい。また、実施が中学1年生から中学2年生に変更になり、事業がより効果的になった。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	小・中学生のキャリア教育の充実	担当課	学校教育課	
概要	【青淵学びの郷づくり】小学生の職業に触れる体験や中学生の職場体験などを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成する。			
平成24年度 の実績	<p>〈発達段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①小学校低学年での「がっこうたんけん」中学年での「まちたんけん」高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。</p> <p>②産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った)</p> <p>③中1での職業調べ、中2での上級学校調べまたは訪問、中3での高校説明会への参加といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。</p> <p>②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校と2回、熊谷市内高等学校と1回の協議会を開催)</p> <p>〈職場体験活動の充実〉</p> <p>①中学生社会体験チャレンジの実施(対象を中1から中2に移行中のため7校が実施した。当該中学校では事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施)</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		社会体験チャレンジ参加実人数	874人	中1から中2への移行期にあたり、10校中7校実施
		社会体験チャレンジ参加割合	100%	全生徒参加
		生徒一人当たりのコスト	2,639円	実施校が7校であったため、やや効率性に欠けた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達段階に応じた取組がなされた。中学生で行う社会体験チャレンジは、推進委員会での協議等により、全中学校で体験活動が3日間に統一されるなど、一定の成果が上がっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進		点検評価表作成課	学校教育課				
施策の方向性	○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整えます。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めます。							
施策に関連する主な取組	○特別支援教育体制の整備・充実			○他機関との連携				
	○就学支援・相談の充実			○支援籍学習の推進				
	○特別支援教育の視点に立った指導の充実							
	○特別支援補助員の活用							
指標名	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率	52.1%	57.7%					
		現状値 (平成23年度)	52%		➔	目標値 (平成29年度)	100%	

平成24年度重点施策	○特別支援教育体制整備事業	
平成24年度実績	○特別支援教育体制の整備・充実、○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 ・特別支援教育担当者研修会 2回 ・特別支援教育担当者研修会(経験3年以下) 2回 ・巡回相談員研修会 1回 ・小中連携巡回相談研修会 1回 ○就学支援・相談の充実 ・巡回相談66回(幼稚園 13回、小学校 36回、中学校 17回) ・学校・学級支援相談 18回 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会 1回 ○他機関との連携・・・他機関訪問 43回 ○支援籍学習の推進・・・就学支援委員会 4回 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査実施件数 202回	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	特別支援教育を推進していく上で、特別支援教育コーディネーター及び特別支援教育担当者の専門性の向上を目指して、引き続き継続的に研修に取り組んでいく必要がある。また、今後、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育のさらなる推進のため、通常の学級担任の指導力向上に取り組んでいく必要がある。	
評価コメント	教職員の指導力向上のための研修会や幼稚園、小・中学校への巡回相談、学級学校支援相談等の実施などを通して、1人1人の教育的ニーズに応じた支援に取り組むことができた。また、通常学級在籍の障害のある児童生徒の個別の支援計画作成率が、平成23年度の52%から平成24年度は58%へ上昇することができた。以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標に対する取組は着実に進んでおり、充実していると評価できる。 ・特別支援教育に関する多くの個人情報については、引き続き適切な管理を行ってほしい。 ・深谷市の特別支援教育の体制は、他市に比べて非常に進んでいる。
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	特別支援教育体制整備事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 特別支援教育体制を整備し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。			
平成24年度 の実績	○研修会 ・特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 ・特別支援教育担当者研修会 2回 ・特別支援教育担当者研修会(経験3年以下) 2回 ・特別支援補助員研修会 1回 ・巡回相談員研修会 1回 ・小中連携巡回相談研修会 1回 ○巡回相談66回(幼稚園 13回、小学校36回、中学校17回) ○学校・学級支援相談 18回 ○他機関訪問 43回 ○就学支援委員会 4回 ○WISC検査実施件数 202回			
	指標名		実績値	指標別コメント
	特別支援教育関係研修会		10回	特別支援教育担当者の専門性向上のための研修を行い、個に応じた子どもへの指導・支援につなげている。
	巡回相談の実施率		100%	巡回相談を実施することにより、子ども1人1人の教育的ニーズを把握でき、指導・支援の充実を図っている。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	研修会や巡回相談を通して、特別支援教育担当者の専門性の向上や校内支援体制の見直し、個に応じた支援について教職員の理解が深まり、特別支援教育体制整備の充実を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	まごころと思いやりをはぐむ教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性	○「青淵学びの郷づくり」を推進します。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進します。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進します。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進します。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進します。		
施策に関連する 主な取組	○「青淵学びの郷づくり」の推進	○「教育に関する3つの達成目標」の推進(再掲)	
	○道徳教育の推進		
	○体験活動の推進		
	○読書活動の推進		

指標名	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (一)	1,349作品 (130)					
		現状値 (平成23年度)	589作品		➡	目標値 (平成29年度)	1,000作品	

平成24年度 重点施策	○まごころ先生の派遣 ○渋沢栄一こころざし読本の活用
------------------------	-------------------------------

平成24年度 実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・「青淵学びの郷づくり」心の教育推進協議会の実施(2月13日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,830点)と表彰、作品集(第5集)の作成、配布 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一こころざし読本」は、すべての小・中学校で活用されている。 ・市内全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校23回、中学校20回) ○読書活動の推進 ・市内全小・中学校に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置 ・ふかや必読書30の推奨「広報ふかや」で紹介 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校39.14冊、中学校5.58冊 ○「教育に関する3つの達成目標」の推進(再掲) ・小・中学校合わせて108項目中、106項目が達成率80%を上回った。
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	-------------------------------------------------------------------------------

課題	・子どもたちの心の教育を充実させるために、引き続き、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------

評価コメント	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の活用の他、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図れた。 ・成果指標については、目標値の1,000作品を超えることができた。今後は高校生や大学生を除く一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

意見・提言	・立志と忠恕の深谷教育プランの取組の一環として、市独自に「渋沢栄一こころざし読本」を作成するなど心の教育の充実が図られ、大変評価できる。 ・「ありがとうの思い」は、応募作品数も増加しており周知も進んでいる。努力が結果として実ったと評価できる。
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	まごころ先生の派遣		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、まごころ先生の派遣を推進する。			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市内の全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校23回、中学校20回) ・深谷市教育委員会委嘱の道徳教育研究発表会を上柴中学校区3校で実施し、「まごころ先生」を活用した道徳の時間を公開する。(市内小・中学校全教員750名に資料配布、研究発表会456名参加) ・深谷市道徳教育研修会を8月1日に実施し、「まごころ先生」の効果的な活用を図った事例を示す。(小学校25名、中学校15名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「まごころ先生」活用率	小学校100% 中学校100%	「渋沢栄一こころざし読本」の積極的な活用を図るため、全ての小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校へ「まごころ先生」を派遣することで、「渋沢栄一こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができる。 		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	渋沢栄一こころざし読本の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 栄一翁をはじめとした郷土の偉人の生き方等に触れ、子どもの心の芯を鍛える。			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「渋沢栄一こころざし読本」は、すべての小・中学校で活用されている。(活用状況小・中学校100%) ・深谷市教育委員会委嘱の道徳教育研究発表会を上柴中学校区3校で実施し、「渋沢栄一こころざし読本」を活用した道徳の時間を公開する。(市内小・中学校全教員750名に資料配布、研究発表会456名参加) ・深谷市道徳教育研修会を8月1日に実施し、「渋沢栄一こころざし読本」の効果的な活用を図る。(小学校25名、中学校15名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	渋沢栄一こころざし読本の活用率	小学校100% 中学校100%	道徳年間指導計画に位置付け、市内全ての小・中学校で着実に実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校で「渋沢栄一こころざし読本」を活用することで、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができる。 		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		いじめ・不登校の防止		点検評価表作成課		学校教育課			
施策の方向性		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行います。また、教育相談活動を推進します。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進します。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努めます。							
施策に関連する主な取組		○いじめ対策の推進							
		○教育相談活動の推進							
		○不登校対策の推進							
		○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)							
指標名		不登校児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上欠席)児童生徒の100人当たりの割合	深谷市	2.4%	2.1%					
		埼玉県	2.4%	2.4%					
		現状値 (平成23年度)	中学生2.4% (深谷市)				目標値 (平成29年度)	中学生2.2% (深谷市)	
平成24年度重点施策	○学校総合支援員配置事業								
平成24年度実績	○いじめ対策の推進 ・「いじめや暴力をなくそう」教育長アピール(平成24年7月)全小・中学生へ配付 ・学校への市費臨時職員の配置 学校総合支援員(中学校全校)、スクールライフサポーター(小学校6校、中学校7校) ・いじめ状況等の調査の実施と見届け(全小・中学校、毎月) ・「深谷イーネット」相談専用ダイヤルの開設 ・いじめに係る教員研修の実施 ○不登校対策の推進 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)、小1問題対応非常勤講師(小学校6校)の配置 ・「中1ギャップ」対応のための「小学校教科支援エキスパート」(全小学校)、小学校理科支援員(全小学校)の配置。 ・児童生徒支援のための学校総合支援員(全中学校)、スクールライフサポーターの配置。								
総合評価	S		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題	・いじめの早期発見・早期対応のための体制整備は進んでいるが、いじめの未然防止が今後の課題である。 ・いわゆる「中1ギャップ」の解消が図られつつあるが、不登校の未然防止のための取組が課題である。								
評価コメント	・いじめ、不登校防止のための市費臨時職員の配置が効果をあげている。また、成果指標でも平成24年度は2.1%と目標値を下回っている。今後は未然防止をキーワードに施策を進めていくことが必要である。以上のことから、総合評価は「S」とする。								
意見・提言	・学校教育課の指導のもと各学校の取組の充実により、不登校対策が着実に実を結んでいる。 ・学校総合支援員は、地域と学校との連携に積極的に取り組んでおり評価できる。								

重点施策評価表

重点施策名	学校総合支援員配置事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】全中学校に学校総合支援員を配置し、学校が抱える問題の解決に向けたアドバイスや児童・生徒の安全指導、中学生補習学習の支援等を行う。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題の解決に向けてのアドバイスをを行い、必要に応じて家庭訪問を行うなど、直接対応した。 ・児童・生徒の安全指導(スクールガード支援)を9校で実施。 ・中学生補習学習事業(ステップアップレッスン)のコーディネートを行った。 大学生ボランティアの調整、職員との連携、実際の指導にあたる。10校で132回を実施。 ・市内各中学校間の情報交換のため、定例会議を実施した。主任児童委員会議と同日開催にし、情報交換を行った。(全4回) ・学校問題サポートチーム会議の一環として弁護士を講師として研修会を行った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学校運営支援	100%	学校の状況に合わせて、不登校や児童虐待、保護者対応など、学校が抱える問題についてのアドバイスを行った。	
	スクールガード支援	90%	学校応援団等と連携し、児童・生徒の登下校の安全指導を行う。9校で実施した。	
学習支援	10校	塾へ行っていない生徒を対象とした補習学習を行う。10校で実施した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>学校総合支援員は、学校に係る多様な活動に対して、学校運営、生徒指導推進の力となっているとの評価を得ている。</p> <p>また、主任児童委員や民生委員との情報交換を行い、児童・生徒に係る情報を共有し、スムーズな対応ができるようになっている。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		生徒指導の充実		点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進します。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行います。						
施策に関連する 主な取組		○生徒指導体制の充実						
		○非行・問題行動の防止						
指標名		児童生徒の暴力行為の発生件数						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	13件					
		現状値 (平成23年度)	30件		➔		目標値 (平成29年度)	25件

平成24年度 重点施策	○SLS(スクールライフサポーター)の配置	
平成24年度 実績	<p>○生徒指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携および小学校と中学校の連携を図った。 ・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校6校に、「学級運営等の改善のための非常勤講師」を小学校2校に配置した。 <p>○非行・問題行動の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターを県警に要請し、市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。 ・スクールライフサポーター(SLS)を市内小・中学校13校に配置し、積極的な生徒指導や問題行動の未然防止を図った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・すべての小・中学校で非行防止教室を実施した。 <p>・暴力行為発生件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 すべての項目で0件 ・中学校 対教師暴力1件、生徒間暴力8件、対人暴力1件、器物損壊3件、計13件 	
総合評価	S	<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>
課題	学校と警察とのさらなる連携の充実を図るとともに、同一の生徒が暴力行為を繰り返すことへの対応が課題である。	
評価コメント	平成21年度より4年連続で市内の暴力行為発生件数は減少しており、平成24年度は13件となり、目標値(25件)を大きく下回っている。今後も、暴力行為の未然防止をさらに進めていく必要があり、小中学校の連携や学校と警察との連携を充実させたい。以上のことから、総合評価は「S」とする。	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・市独自にスクールライフサポーターを配置し、非行・問題行動の防止を図っており評価できる。 ・成果指標の24年度実績値は、目標値の25件を下回る13件であり、目に見えて努力の成果が出ている。
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	SLS(スクールライフサポーター)の配置		担当課	学校教育課												
概要	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターなどの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。															
平成24年度 の実績	スクールライフサポーターの配置 (1)目的 生徒指導の充実に資するため、授業に集中できるように個々に応じた学校指導支援を行う。また、学級での支援及び校内パトロール等を行うことで、情報をいち早くキャッチし、問題行動の発生を未然に防止する。 (2)配置について(小学校6校、中学校7校 13名) ・深谷西小学校、桜ヶ丘小学校、上柴東小学校、上柴西小学校、大寄小学校、花園小学校 ・南中学校、藤沢中学校、上柴中学校、幡羅中学校、明戸中学校、岡部中学校、花園中学校															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="308 506 687 551">指標名</th> <th data-bbox="695 506 962 551">実績値</th> <th data-bbox="970 506 1420 551">指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="308 562 687 663">スクールライフサポーターの配置</td> <td data-bbox="695 562 962 663">13校13名</td> <td data-bbox="970 562 1420 663">スクールライフサポーターを13校で13名配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 674 687 775">不登校数の減少 暴力行為の減少 非行問題の減少</td> <td data-bbox="695 674 962 775">不登校数は90名 暴力行為は13件 非行問題件数は76件</td> <td data-bbox="970 674 1420 775">不登校、暴力行為、非行問題行動の全てが減少傾向となっており、取組が進んでいる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="308 786 687 831"></td> <td data-bbox="695 786 962 831"></td> <td data-bbox="970 786 1420 831"></td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	スクールライフサポーターの配置	13校13名	スクールライフサポーターを13校で13名配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。	不登校数の減少 暴力行為の減少 非行問題の減少	不登校数は90名 暴力行為は13件 非行問題件数は76件	不登校、暴力行為、非行問題行動の全てが減少傾向となっており、取組が進んでいる。				指標別コメント
	指標名	実績値	指標別コメント													
	スクールライフサポーターの配置	13校13名	スクールライフサポーターを13校で13名配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。													
不登校数の減少 暴力行為の減少 非行問題の減少	不登校数は90名 暴力行為は13件 非行問題件数は76件	不登校、暴力行為、非行問題行動の全てが減少傾向となっており、取組が進んでいる。														
スクールライフサポーターの配置	13校13名	スクールライフサポーターを13校で13名配置することができ、目標を達成することができ、問題行動の未然防止を図ることができた。														
不登校数の減少 暴力行為の減少 非行問題の減少	不登校数は90名 暴力行為は13件 非行問題件数は76件	不登校、暴力行為、非行問題行動の全てが減少傾向となっており、取組が進んでいる。														
担当課 評価	評価区分	評価コメント														
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができている。また、校内パトロールを実施することで、情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。														
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)																

施策名		人権を尊重した教育の推進				点検評価表作成課		学校教育課		
施策の方向性		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進します。								
施策に関連する主な取組		○人権教育推進体制の充実								
		○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善								
		○児童虐待防止教育の推進								
		○男女共同参画の視点に立った教育の充実								
指標名		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合								
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内の小中学校の全学級で、人権感覚育成プログラムを活用した授業実践を行った学級の割合	小学校	76%	85%						
		中学校	80%	86%						
			現状値 (平成23年度)	小学校 76% 中学校 80%		➡		目標値 (平成29年度)	小学校 90% 中学校 90%	
	平成24年度重点施策		○情報モラル教育の推進 ○人権教育総合推進地域事業							
平成24年度実績		○人権教育推進体制の充実 ・新転任人権教育研修会の実施(7/23,24) ・ブロック別人権教育研修会の実施(市内10ブロック) ・人権教育懇談会の実施(8/30) ・人権教育主任研修会の実施 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転入教職員研修「情報モラルを指導する～インターネットの光と影～」を実施 ・ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導の実施(全19小学校・全10中学校) ・幼小中の合同人権教育研修会の実施 年5回 ○児童虐待防止教育の推進 ・H24年度児童虐待防止教育研修会への参加(県主催 29名) ・H24年度児童虐待アフターケア研修会への参加(県主催 市内5校) ・児童虐待対応に係る臨時連絡会の実施(11/21)								
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題		明戸中学校区での人権教育総合推進地域事業の取組を、家庭、地域へと広めていくとともに、市内の小・中学校へ広めていく。								
評価コメント		人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導力を高めることができた。今後も引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。以上のことから、総合評価は「A」とする。								
意見・提言		・成果指標に関しては、目標に向けて努力をしていると評価できる。 ・人権教育が学校の授業の取組として展開され、定着し実を結んでいる。 ・幼稚園児、小学生、中学生が、お年寄りに花の種をプレゼントする取組がある。人権教育総合推進地域事業の取組を地域へと広めるものであり、このような取組が浸透していくことを期待する。								

重点施策評価表

重点施策名	情報モラル教育の推進		担当課	学校教育課
概要	児童生徒の正しい判断力を身につけるため、情報モラル教育を充実する。			
平成24年度の実績	<取組>深谷市新任・転入教職員研修にて、人権教育研修を行った。 ①対象:本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等 ②内容:「情報モラルを指導する～インターネットの光と影～」と題し、児童生徒の正しい判断力を身につけさせるための指導方法について ③講師:学校教育課課長補佐 <取組>各学校において、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。 ①実施校及び対象:全29小学校・全10中学校の全児童生徒及び保護者に対して ②内容:携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、情報モラルに係る具体的な指導や啓発を行った。 ③講師:各学校から依頼(例:深谷警察署生活安全課職員)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。	
	非行防止教室保護者参加人数	1,982人	多くの保護者への啓発がなされたことが、成果となった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	人権教育総合推進地域事業		担当課	学校教育課
概要	豊かな人間性や人権感覚をはぐくむために、人権教育総合推進地域事業を推進する。			
平成24年度の実績	○学校、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を教育委員会との連携・協力の 下で推進し、地域全体で人権尊重の意識を高め、一人一人を大切に教育の充実を図る。 【研究指定地域】 明戸中学校区 【研究指定期間】 平成24年度から平成26年度(3年間) 【研究費】 2校1園(年 82万円) 【研究テーマ】 学校・家庭・地域が一体となり、まごころと思いやりをはぐくむ人権教育の推進			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	幼小中合同の人権教育研修会の実施	71%(7回中、合同研修会は5回)	幼小中の連携を図るため、人権教育研修会を定期的実施している	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成24年度の実績を踏まえ、今後も人権教育の研修を充実させるとともに、幼小中の連携を図るため、引き続き、異校種間の交流の機会を確保していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		健康の保持増進				点検評価表 作成課		学校教育課	
施策の方向性		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進します。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進します。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進します。							
施策に関連する 主な取組		○学校保健の充実							
		○食育の推進							
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進							
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内全児童生徒を対象とする「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合		小学校5年生	94.0%	94.6%				
			中学校2年生	89.0%	89.6%				
			現状値 (平成23年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%		→		目標値 (平成29年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%
平成24年度 重点施策		○食育の推進と朝食欠食の解消 ○小・中学校給食場建設事業							
平成24年度 実績		○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画の作成 ・保護者参加の学校保健委員会の実施 ○食育の推進 ・誰でも作れる簡単朝食メニュー(材料、作り方)を紹介した「こころざし」の配布 ・地場産物を活用した献立の作成 ・豊里中学校区(豊里中・豊里小・八基小)を拠点校としての食育の推進 ・栄養教諭参加の研修の実施 ・自校給食場を建設するための設計 榛沢小学校・本郷小学校 ・藤沢中学校給食内部改修工事の実施 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業の実施 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室の実施							
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題		朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。							
評価コメント		・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小中学校で作成するとともに、学校保健委員会を全小中学校で年1回以上実施することができた。 ・朝食欠食の解消に向けた取組については、小中ともに0.6ポイント向上した。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言		・朝食を毎日必ず食べる児童生徒の割合は依然として高い数値であり、家庭・学校の食育の指導が確実に定着している。 ・花園中学校給食場建設については、サギに係る衛生環境を改善した後は、生徒のために着実な進捗を期待したい。							

重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	教育総務課 学校教育課
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・地場産物の活用を推進し、地域の特色を生かした給食の充実を図る。 ・栄養教諭等を中心に研修し、学校における食育を推進する。 			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも作れる簡単朝食メニュー(材料、作り方)を紹介した「こころざし」を家庭に配布した。 ・各小中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。 ・豊里中学校区(豊里中・豊里小・八基小)を拠点校として、食育の推進を行った。 ・体力向上推進委員会に栄養教諭も参加して研修を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	地場産物の活用の啓発(献立作成)	100%	全小中学校で地場産物を活用した献立を作成することができた。	
	栄養教諭も参加する研修の実施	1回実施	栄養教諭も参加する研修を実施し、簡単朝食メニューを考案してもらうことができた。	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校は94.6% 中学校は89.6%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小中ともに0.6ポイント向上した。	
学校給食における地場産物の使用割合	30%	県の「食育推進基本計画」で定められた目標30%を達成した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	朝食欠食の解消に向けた取組については、「こころざし」を各家庭に配布し、家庭に協力を求めることができた。また、学校に地場産物を積極的に活用するように呼びかけた結果、地場産物を使用した割合は30%となった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	小・中学校給食場建設事業		担当課	教育施設課
概要	榛沢小学校、本郷小学校及び花園中学校の自校式給食場を建設するため、設計を行う。			
平成24年度の実績	<p>榛沢小学校及び本郷小学校に係る自校式給食場の設計業務は完了した。 しかし、花園中学校に関しては、建設地北側の林がサギの生息地となっており、サギの糞や羽毛が飛散している中での給食場建設は、衛生管理上のリスクが非常に高いことから、生徒や教職員等に対する衛生環境の改善を最優先とし、衛生環境が整うまで建設を延期することとした。(H24.10月) (全体計画)</p> <p>○整備予定学校数 7校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧岡部地区 小学校 4校(岡部小・榛沢小・本郷小・岡部西小)、中学校 1校(岡部中) ・旧花園地区 小学校 1校(花園小)、中学校 1校(花園中) <p>※花園小、岡部中は既存の給食センターを改修する。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	給食場建設工事設計業務委託	2校	平成25年度での給食場建設工事に向けた設計業務が完了した学校数	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	平成24年度での設計業務が予定されていた小中学校3校の内、榛沢小及び本郷小の2校は計画どおりに実施できた。花園中については、衛生管理上のリスクを踏まえ、給食場建設計画の延期を行うことから、「2」見直して継続とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		体力の向上と学校体育活動の推進		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。							
施策に関連する 主な取組		○学校体育の充実							
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進							
		○運動部活動の充実							
指標名		新体力テストの結果							
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	新体力テスト結果の5 段階絶対評価で上位2 ランク(A, B)の児童生 徒の割合	小学校	52.4%	51.8%					
		中学校	47.1%	57.8%					
			現状値 (平成23年度)	小学校 52.4% 中学校 47.1%	➔		目標値 (平成29年度)	小学校 57% 中学校 52%	

平成24年度 重点施策	○武道の充実 ○走力向上の取組の推進	
------------------------	-----------------------	--

平成24年度 実績	○学校体育の充実について ・体力向上推進委員会の実施(年5回) ・実技研修会の実施 ・小学校水泳実技指導者講習会 ・小学校体育実技指導者講習会 ・深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会 ・外部指導者を活用する柔道授業の実施(6中学校) ○教育に関する3つの達成目標 ・新体力テストの実施 ・走力向上「50m走にチャレンジ」の推進 ○運動部活動の充実 ・外部指導者の活用 40名を全10中学校にわけて派遣	
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	------------------------------------------------------------------------------

課題	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。
-----------	---------------------------------------------

評価コメント	・新体力テストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると小学校では0.6ポイント下回り、中学校では10.7ポイント向上している。小中合わせると5.1ポイント向上している。 ・全中学校で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

意見・提言	・成果指標は上位の子どもが対象だが、下位の子どもにも目配りをし、下位になる人数を減らしていくことも大事である。 ・児童生徒の体力向上を目標とした教師の指導力向上を図る研修会の取組が充実している。 ・外部指導者の活用について評価できる。
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	武道の充実	担当課	学校教育課
概要	教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。		
平成24年度の実績	1 市教委主催の「深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会」を開催 2 外部指導者を活用する柔道授業の実施 (1)対象校 6校(明戸中、幡羅中、深谷中、南中、岡部中、川本中) (2)外部指導者及び実施期間 ・明戸中学校 平成24年11月12日(月)～平成24年12月 3日(月) ・幡羅中学校 平成24年11月 5日(月)～平成24年11月30日(金) ・深谷中学校 平成24年11月 5日(月)～平成24年11月30日(金) ・南中学校 平成24年12月10日(月)～平成25年 1月28日(月) ・岡部中学校 平成25年 1月10日(木)～平成25年 2月13日(水) ・川本中学校 平成24年 9月24日(月)～平成24年10月26日(金)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	柔道指導者研修会の実施	2回実施	武道(柔道)に関する指導者研修会を授業実施前に2回実施し、教職員の指導力を向上させることができた。
	柔道の授業に外部指導者の配置	6校に配置	柔道の授業がある6校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。
柔道の授業におけるけがをした生徒の割合	0%	柔道の授業においてけがをした生徒が1人もいなかった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	武道(柔道)指導者研修会を実施することで、柔道の授業の内容や安全面に留意した指導方法を学ばせることができた。教職員の指導力を向上させるとともに、外部指導者を活用したことで、けが人を1人もだすことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	走力向上の取組の推進	担当課	学校教育課
概要	「50m走にチャレンジ」を推進したり、運動部活動の外部指導者を派遣するなど運動部活動の充実を図る。		
平成24年度の実績	1 小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施 (1)目的 深谷市小・中学校体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高める。 (2)対象 小学校1年生～中学校3年生 (3)実施期間 平成24年10月1日～11月30日 (4)その他 新体力テスト実施要項に準じて実施 各学年上位10名に記録証を発行		
	指標名	実績値	指標別コメント
	深谷市チャレンジの実施	全校	深谷市内全小・中学校で深谷市チャレンジを実施し、走力の向上を図ることができた。
	新体力テストにおける50m走の記録(小・中ともに、県平均を50%上回る)	県平均を上回った割合39%	平成24年度新体力テストの50m走において、県平均を上回り、記録が向上してきている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	深谷市の体力の課題である50m走の記録を向上させるために深谷市チャレンジを実施し、児童生徒は意欲的に取り組んだ。小・中学校ともに記録は向上している。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		信頼される教職員の育成		点検評価表作成課	学校教育課			
施策の方向性		○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子どもと向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。						
施策に関連する主な取組		○教育研究所の機能の充実			○指導力が不足している教員への対応			
		○経験豊かな人材の活用			○子どもと向き合う環境づくりの推進			
		○教職員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
		○人事評価制度の充実						
指標名		教職の経験年数に応じた研修の実施状況						
指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
成果指標	若手や中堅・ベテランの教職員、管理職等の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施する	0	0					
	若手教職員研修の回数	0	0					
	中堅教職員研修の回数	0	0					
	管理職研修の回数	2	2					
現状値 (平成23年度)		管理職対象の研修会2回の実施		目標値 (平成29年度)		①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回)		
平成24年度重点施策		○教育研究所を核とした教員研修の充実 ○学校問題サポートチームの設置						
平成24年度実績		○教育研究所の機能の充実 ・不登校対策、適応指導教室「いきいき教室」の充実。通級児童生徒14名中10名が学校復帰 ・通級指導教室「発達障害・情緒障害(セルフサポート教室)」「きこえとことば」の充実 ・学校、学級支援相談の充実。22回、40ケース+4学級(幼0、保4、小13、中5) ○職員研修の充実 ・研究協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等の実施 ・市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施 市内全幼稚園長、小・中学校長参加 ・児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向けた第1次支援体制として、学校総合支援員10名を配置 ・弁護士、警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家による「学校問題サポートチーム」を設置し、より困難な問題や法的な対応が必要とされる場合の第2次支援体制を整備 ・学校から寄せられる個々のケースについて、問題の早期解決及び適切な対応を行うための専門的な見地から、学校への指導や助言を実施 ○指導力が不足している教員への対応 ・指導力が不足している教員へ、各指導主事が学校を訪問し繰り返し指導を行った。平成25年度の指導改善研修の研修生として1名決定。 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ・年間3回、子どもと向き合う保護者サポート講座実施 計3回の参加者人数82名 ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ・担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談の実施 年間12回						
総合評価		A ※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
課題		・若手や中堅・ベテランの教職員の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施するために、計画的に進めていく必要がある。						
評価コメント		・管理職を対象とした研修会を、年間2回実施した。その他の経験年数に応じた研修については、平成25年度実施に向けて企画及び準備を進めた。また、信頼される学校教育の推進を図り、「学校が好きだ」と回答した児童生徒の割合も県平均を5%程度上回った。 ・学校総合支援員10名を配置し、弁護士、警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家等による「学校問題サポートチーム」を設置し、学校からの相談に迅速に対応することができた。 以上のことから、総合評価は「A」とする。						
意見・提言		・教職員の育成のため、テーマ別の研修を実施し、指導力の向上を図っていることが評価できる。 ・学校を支援する学校教育課・教育研究所の生徒指導・教育相談の機能が充実している。 ・今後、学校の組織力をより一層充実させてほしい。						

重点施策評価表

重点施策名	教育研究所を核とした教員研修の充実		担当課	学校教育課
概要	教育研究所協力員を中心とした研究、研修を充実させ、教員の指導力向上を図る。			
平成24年度の実績	深谷市立教育研究所を会場とした教員の研修会 【研修内容】 ・研究協力員研修会 ・巡回相談研修会 ・特別支援教育担当者研修会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ・各教科等担当指導主事による研修会 ・通級指導教室研修会 ・セルフサポート教室研修会 ・生徒指導・教育相談中級研修会 ・モデル市事業研修会 ・就学支援委員会 ・生徒指導研修会 等			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育研究所主催の研修会参加人数	2,019人	参加した教員の延べ人数	
	研修会へ参加した回数(1人あたり)	2.56回 (2,019/789)	幼稚園、小・中学校の教員数(789人)から1人あたり2.56回の研修参加となっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成24年度、教育研究所が主催した教員研修会の参加者は、延べ2,019人に達した。引き続き教育研究所を拠点とした、教員研修会を開催していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	学校問題サポートチームの設置		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 専門的な立場からの指導・助言・援助を行う学校問題サポートチームを設置し、子どもと向き合う時間を確保する。			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向けた第1次支援体制として、学校総合支援員10名を配置。 ・弁護士や警察官OB、学校福祉相談員(臨床発達心理士)などの専門家等による『学校問題サポートチーム』を設置し、より困難な問題や法的な対応が必要とされる場合の第2次支援体制を整備。 ・24年8月8日 他県の視察 ・25年1月9日 サポートチーム構成員である弁護士を講師として、市内小・中学校長、学校総合支援員を対象に、「学校における法的課題への対応」をテーマとした研修会を実施。 ・学校から寄せられる個々のケースについて、問題の早期解決及び適切な対応を行うための専門的な見地から、学校への指導や助言を実施。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	専門的な立場からの指導・助言	3件	市民から学校へのクレーム対応2件、学校からの法律相談1件に対応した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童生徒の問題行動や保護者や地域との対応等、学校が抱える様々な課題解決に向け指導・助言を行い、学校を支援することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		子どもたちの安心・安全の確保				点検評価表 作成課	学校教育課	
施策の方向性		○東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもたちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施します。 ○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。 ○災害に強い情報基盤として、ネット commons を全ての小・中学校に導入し、活用していきます。						
施策に関連する 主な取組		○安全教育の推進						
		○学校の危機管理体制の整備・充実						
		○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進						
指標名		緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を年1回以上実施する	小学校	63.1%	100%				
		中学校	80.0%	100%				
		現状値 (平成23年度)	小学校 63.1% 中学校 80%		➡		目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%
平成24年度 重点施策		○緊急地震速報を活用した避難訓練の実施						
平成24年度 実績		○安全教育の推進 ・市内全小・中学校で交通安全教室を実施した。 ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・市内全小・中学校が緊急地震速報の報知音を活用して避難訓練を実施した。 ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を立ち上げて、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を構築した。 ・災害に強い情報基盤として、ネット commons を全ての小・中学校に導入した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。						
総合評価		S		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
課題		・緊急連絡サイトをネット commons 上に構築することが次年度の課題である。 ・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。						
評価コメント		県教育局の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全ての小・中学校で実施できた。併せて、災害時に強い双方向の緊急連絡サイトを構築するための前段階として、全ての小中学校が、ホームページをネット commons に移行した。また、深谷市通学路安全対策連絡会を立ち上げることができた。以上のことから、総合評価は「S」とする。						
意見・提言		・災害に強い情報基盤を整備し、地震に備えた避難訓練を実施したことが評価できる。 ・安全に関しては、スクールガードリーダーなどが年々充実してきており評価できる。						

重点施策評価表

重点施策名	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施		担当課	学校教育課
概要	緊急地震速報を活用した避難訓練を全ての小・中学校で実施する。			
平成24年度 の実績	<p>1 緊急地震速報を活用した避難訓練について</p> <p>(1)ねらい 緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を実施することにより、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。</p> <p>(2)実施校 小学校19校、中学校10校</p> <p>(3)実施回数 29回(全小・中学校各1回)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	全ての小・中学校において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。訓練を実施することで、緊急に地震が起きた場合にも、安全かつ迅速に避難できるように、避難経路や避難の方法について児童生徒は理解することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		学習環境の整備・充実				点検評価表作成課		教育総務課	
施策の方向性		○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進します。							
施策に関連する主な取組		○学校施設の整備推進							
		○学校図書館の整備・充実							
		○ICT環境の整備							
		○学校教材・備品の計画的な整備							
指標名		学校図書館図書標準を達成した学校の割合							
成果指標	指標の説明		平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として、文部科学省が定める基準を達成した学校数の割合	小学校	94.7%	100%					
		中学校	100%	100%					
			現状値 (平成22年度)	小学校 89.5% 中学校 100%		➡		目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%

平成24年度重点施策	○小学校施設大規模改修事業 ○小・中学校施設整備維持事業	
平成24年度実績	○学校施設の整備推進 ・川本南小学校南校舎・岡部西小学校体育館の耐震補強及び老朽化した施設機能回復・強化を図る大規模改修工事を実施した。また、老朽化した藤沢小学校北校舎の解体工事を行った。 ・夏季での児童生徒に対する学習環境の改善、熱中症予防対策の一つとして、小・中学校の普通教室にエアコンを設置した。 ○学校図書館の整備・充実 ・小・中学校に「学校図書館補助員」を配置し、学校図書館整備や読書活動の推進を図った。 ・学校図書館の蔵書の充実を図るため、例年どおり、各学校で新たに図書を購入した。 ○ICT環境の整備 ・小・中学校にある耐用年数を超えたコンピュータの計画的な機器更新を行った。 ・児童生徒がコンピュータで作成した作品を「深谷市児童生徒コンピュータ作品展」で展示し、市民へ公開した。 ・小・中学校の教職員を対象に、教室におけるICTの活用、校務支援ソフトの活用、ネットコモンズを活用したホームページの管理・運用等、教育の情報化に関する研修を実施した。 ○学校教材・備品の計画的な整備 ・花園小学校・花園中学校の児童生徒用の机及びいすを購入し整備した。	
総合評価	S	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・小・中学校の耐震化は完了したが、今後、幼稚園の耐震化について検討が必要である。 ・小・中学校のエアコンは、普通教室のみエアコン設置が完了したが特別教室へ設置していく。 ・小・中学校のコンピュータの導入方法はリースから買取への移行を進め経費の削減を図っていく。 ・学校教材・備品を計画的に整備していくための備品計画を策定していく。	
評価コメント	・重点施策である小・中学校の耐震化工事及び普通教室へのエアコン設置工事は、当初の計画どおり平成24年度で完了した。その結果、小・中学校施設(118棟)の耐震化率及び小・中学校普通教室へのエアコン設置率は100%となった。また、老朽化した施設は計画的に改修・修繕することができた。 ・学校図書館の蔵書数は、すべての小・中学校で標準冊数に対し100%以上となった。 ・コンピュータを活用した事務の情報化・効率化を図るための職員研修を実施できた。 ・小・中学校のコンピュータや学校教材・備品を更新又は購入することができた。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。	

意見・提言	・深谷市の教育環境の整備は計画的に推進され、今後も更なる発展が期待できる。 ・幼保一体化、少子化対策については、今後の課題である。
--------------	----------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	小学校施設大規模改修事業		担当課	教育施設課
概要	川本南小学校南校舎及び岡部西小学校体育館の耐震・大規模改修工事を行う。藤沢小学校北校舎の解体工事を行う。			
平成24年度の実績	川本南小学校南校舎及び岡部西小学校体育館の耐震補強及び老朽化した施設機能回復・強化を図る大規模改修工事を実施すると共に藤沢小学校北校舎の解体工事を行った。 この工事の実施に伴い、小中学校施設(対象:118棟)の耐震化は完了した。 (参考) 全国平均の耐震化率 88.9% 埼玉県下の平均耐震化率 93.1% 深谷市の耐震化率 100% (文部科学省 平成25年8月7日付け報道発表より)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小・中学校施設の耐震化率	100%	深谷市総合振興計画において目標としていた平成24年度98%に対し、1年前倒して達成した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	平成24年度をもって小・中学校施設の耐震化は完了した。今後は、老朽化した施設機能の回復、強化などを行う大規模改修工事を中心とした事業内容で進めていくこととなるため、「2」見直して継続と評価した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	小・中学校施設整備維持事業		担当課	教育施設課
概要	小学校及び中学校の普通教室にエアコンを設置する。			
平成24年度の実績	市内小・中学校全29校に対し、夏季での児童生徒に対する学習環境の改善、熱中症予防対策の一つとして、普通教室へのエアコン設置工事を実施した。 ○エアコンを設置した普通教室の数 429室 内訳 小学校19校 297室(電気方式:169室、都市ガス方式:128室) 中学校10校 132室(電気方式: 58室、都市ガス方式: 74室)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	平成24年度での小・中学校普通教室へのエアコン設置率	100%	普通教室数は、児童生徒の増減と共に年度毎に変動があるため、指標はエアコン設置年度における実績である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	4	平成24年度をもって、全小・中学校普通教室へのエアコン設置は完了したことから、「4」事業達成により終了と評価した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-1

施策名	家庭の教育力の向上		点検評価表作成課	生涯学習課				
施策の方向性	○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進します。							
施策に関連する主な取組	○家庭教育学級の充実							
	○「親の学習」講座の推進							
	○家庭教育だより「まごころ」の発行							
指標名	新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)					
		現状値 (平成23年度)		未実施		目標値 (平成29年度)		全中学校で、 年1回以上実施

平成24年度重点施策	○家庭教育事業	
平成24年度実績	○家庭教育学級の充実 ・家庭教育学級を各公民館にて実施した。 ○「親の学習」講座の推進 ・「親の学習」講座を市内全19小学校及び明戸・幡羅中学校の2モデル校で実施した。(全21回、参加者数1,325人) ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・家庭教育だより「まごころ」を年3回発行した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・「親の学習」平成24年度はモデルとして2中学校で実施した。今後は市内全中学校に対して実施していきたい。 ・家庭教育だより「まごころ」は目標どおり年3回発行できたが、読者アンケートを実施し満足度を向上していきたい。	
評価コメント	・中学校における「親の学習」講座は、平成24年度はモデルとして2中学校で実施し、平成29年度の目標である全中学校での実施に向けて着実に進捗している。 ・家庭教育学級の参加者数は3,171人と昨年度より1,417人増加した。 以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・親の学習については、教育研究所などの人的資源の活用も検討してほしい。 ・親の学習や家庭教育学級への参加率を上げるために、参加しやすい開催日時を検討してほしい。 ・家庭教育学級への参加率を上げるために、主催者の公民館長名に加えて、地域の校長先生やPTA会長の連名で通知を出すなどの方法を検討してほしい。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	家庭教育事業		担当課	生涯学習課
概要	「親の学習」講座を、新1年生の親を対象に、小学校就学時健診時に実施する。新中学1年生の保護者に対しては、平成24年度実施を目指し、実施時期・内容等を検討する。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「親の学習」講座の実施(市内19小学校) ・「親の学習」講座の実施(市内2中学校) ・家庭教育学級の実施 ・家庭教育だより「まごころ」を年3回発行 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「親の学習」の開催	21回	「親の学習」は全19小学校で実施した。また、2中学校でモデルとして実施した。	
	「親の学習」参加者数	1,325人	「親の学習」の参加者数は、前年よりも増加した。	
	「まごころ」年間発行部数	55,200部	「まごころ」は年3回発行することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	「まごころ」の発行及び「親の学習」ともに順調に事業が進められている。また、新中学生の「親の学習」を全中学校で実施できるよう進めていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		地域の教育力の向上		点検評価表 作成課		生涯学習課		
施策の方向性		○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進します。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進します。						
施策に関連する 主な取組		○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進			
		○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進			
		○学校応援団の推進						
		○学校教育・社会教育の連携						
指標名		「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%					
		現状値 (平成23年度)		66.8%	➡	目標値 (平成29年度)		80%

平成24年度 重点施策	○学級講座等開設事業	
平成24年度 実績	○世代間交流事業の推進 ・市内公民館で各種学級講座を開催した。 ・市内公民館で家庭教育講座を開催した。 ○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを全19小学校で実施した。 ○学校応援団の推進 ・学校支援者補償制度に加入した。 ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・がんばル〜ム参加児童数を増加させたい。また、アンケート結果を参考に事業内容を精査していきたい。 ・各小学校の事業と重複したことにより、がんばル〜ムの実施回数が減少したため、平成25年度は学校と調整したい。 ・公民館と協力して、各種学級講座を魅力あるものとしたい。	
評価コメント	・がんばル〜ムは参加児童にアンケートを行った結果、概ね満足いくものであった。 ・各公民館にて各種学級講座及び世代間交流事業を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・がんばル〜ムの参加者の減少について対策を検討してほしい。 ・管理職以外の先生方の学校応援団への理解を深めるために、学校教育課と連携した情報の提供や学校における情報の共有化を進めることを検討してほしい。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	学級講座等開設事業		担当課	生涯学習課
概要	地域社会の連帯意識の向上を図り、地域ぐるみで子育てを行う考えのもとに、各公民館で地域住民が子どもたちにお祭りや物作りの指導等を行う。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 学級講座の開催 家庭教育講座の開催 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学級講座開催延べ回数	296回	「学級講座」は、各公民館において多くの事業を行った。	
	学級講座参加者数	11,600人	「学級講座」の参加者数は若干減少しているが、内容は満足できるものであった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	各公民館では、現行の「学級講座」に加え、公民館独自に地域性を生かした「学級講座」を開催することにより、参加者数の増加を図る必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		学習機会の提供と学習活動の支援		点検評価表 作成課		生涯学習課		
施策の方向性		○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備します。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図ります。						
施策に関連する 主な取組		○生涯学習推進体制の整備・充実			○市民大学の推進			
		○指導者の育成・確保			○子ども体験学習の推進			
		○学習情報の収集と提供			○放課後子ども教室の推進(再掲)			
		○講座・教室の充実						
指標名		「ふかや市民大学」の満足度						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	受講生に対しアンケートを行い、 受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合	93.7%	98.0%					
		現状値 (平成23年度)		93%	➡		目標値 (平成29年度)	

平成24年度 重点施策	○市民大学運営事業 ○子ども芸術・文化推進事業	
平成24年度 実績	○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。 ・シルバー生活文化展を公民館協会にて開催した。 ○市民大学の推進 ・市民大学を19回開催した。また、各班活動を実施し成果を発表することができた。 ・市民大学運営委員会を開催し、平成25年度へ向けた講座の見直しを行った。 ○子ども体験学習の推進 ・親子体験教室(藍染体験教室)を実施した。 ・子ども体験教室(ペットボトルロケット教室)を実施した。 ・小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」や「こども大学ふかや」において、文化・芸術体験を展開した。 ○放課後子ども教室の推進(再掲) ・がんばル〜ムを全19小学校で実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・市民大学の入学者が募集定員(80名)に達していないため、各種講座や会議等で更に周知していきたい。 ・市民大学卒業生に対するボランティア情報の提供等、卒業生の社会参加の支援を行っていきたい。	
評価コメント	・市民大学運営委員による講座の見直しを実施し、平成25年度の講座を決定することができた。 ・「親子体験教室・子ども体験教室」は各2回実施したため、参加児童が大幅に増加した。 ・成果指標である満足した受講者の割合については、平成29年目標値を上回ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標については、受講生の98%が満足しており評価できるが、今後は入学者の定員の確実な確保が必要である。 ・市民ボランティアの参加を増やすために、ふかや市民大学の卒業生で構成している校友会に対して、ボランティア活動の支援を検討してほしい。
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------


重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習課
概要	深谷公民館・藤沢公民館を中心に市内公共施設において、月2回を原則に全19回講座を実施する。			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学の開催(全19回講座の実施) ・市民大学運営委員会の開催 ・市民大学講座の他に班活動を実施 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市民大学講座回数	19回	市民大学は目標どおり全19回実施することができた。	
	市民大学応募者数	75人	運営委員会にて講座の見直しを実施した。また班活動では成果を発表することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民大学運営委員による講座の見直しを行うことができた。今後は市民大学卒業生に対するボランティア情報の提供等、卒業生の社会参加の支援を行っていききたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	子ども芸術・文化推進事業		担当課	生涯学習課
概要	市内小学生(4年生以上)を対象に、「なぜ」を追究する「はてな学」、ふるさとのことを深く知る「ふるさと学」、より良く生きる「生き方学」の三分野で「子ども大学ふかや」を実施する。また、児童生徒がさまざまな芸術に触れながら、創造性や柔軟な発想を育むことを目的に、市内小学4年生から中学生対象のプログラム「アーティスト倶楽部」を実施する。			
平成24年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学生を対象にした「こども大学ふかや」や「アーティスト倶楽部」において、文化・芸術体験を展開した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	アーティスト倶楽部実施回数	5回	例年並みに実施した。	
	アーティスト倶楽部参加者数	328人	ほぼ例年並みに参加者が得られた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民のニーズを考えながら、アーティスト倶楽部を実施することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

施策名		活動施設の整備・充実						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○公民館の整備・充実							
成果指標	指標名	公民館利用者数							
	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名						
		現状値 (平成22年度)		523,505名		目標値 (平成29年度)		530,000名	

**平成24年度
重点施策** ○(仮称)花園公民館建設事業

**平成24年度
実績**

○公民館の整備・充実

- ・(仮称)花園公民館建設工事を発注した。
- ・市内各公民館の建物保守、検査を行った。
- ・市内各公民館の修繕工事を行った。
- ・市内各公民館の施設備品購入を行った。

(参考)

- ・市内12公民館の年間利用件数

平成24年度	32,295件
平成23年度	32,247件
平成22年度	31,081件

総合評価

A

※総合評価の目安
 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる
 B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない

課題

指標である年間利用者数については、平成23年度に比べ7,587名減少したが、各公民館のカウント方法の違いに大きな原因があるものと考えられる。今後この点については、統一を図っていく必要がある。なお、年間利用件数については、前年度比48件の増加となっており、ほぼ横ばい状態である。

評価コメント

年間利用者数については減少しているが、年間利用件数については増加している。また、花園公民館の建築本体工事については、オープンに向け計画通りに進めることができた。市内公民館の修繕については、利用者の安全・安心を第一に考え、ほぼ実施することができた。以上のことから、総合評価は「A」とする。

意見・提言

・他市と比べても深谷市の生涯学習活動施設の整備・充実が素晴らしい。今後は、公民館利用者数の確実な把握と更なる向上に努めてほしい。

重点施策評価表

重点施策名	(仮称)花園公民館建設事業		担当課	教育施設課
概要	建築本体工事(建築工事・電気設備工事・機械設備工事)を実施する。			
平成24年度 の実績	<p>建築本体工事(建築工事・電気設備工事・機械設備工事)の工事発注を行うと共に、工事受注者に対し円滑な工事施工を実施するための監督業務を行った。(H24・H25継続事業) なお、開館は、平成25年12月2日を予定している。 ※生涯学習課執行委任工事</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	平成25年3月末での工事進捗率	53.7%	各工事の請負者から提出された計画工程(総合工程: 54.3%)に対し、概ね計画とおりの進捗状況である。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	<p>指標の実績値のとおり、平成24年度での建築本体工事は概ね計画通りに進捗している。 今後は、平成25年12月2日の開館に向け、建築本体工事を引続き進捗管理等を行うと共に、外構工事などの関連工事の工事発注・監督を行う。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	図書館の整備・充実	点検評価表作成課	図書館
施策の方向性	○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図ります。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進めます。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努めます。		
施策に関連する主な取組	○図書館資料の整備・充実 ○利用者へのサービスの充実 ○読書活動の促進 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実		

指標名	資料貸出点数							
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	図書館4館の年間貸出点数の合計(資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)	712,427点	694,783点					
		現状値(平成22年度)		690,105点	➡	目標値(平成29年度)		708,000点

平成24年度重点施策	○読書推進事業
-------------------	---------

平成24年度実績	○図書館資料の整備・充実 ・児童資料の購入や寄贈本の受け入れ(市ホームページにより周知)を増やすことにより充実を図った。 ○利用者へのサービスの充実 ・職員でなくても可能な窓口業務は、民間委託の導入(継続)を図り、利用時間の拡大等利用者の要望に応えた。 ○読書活動の促進 ・子どもの読書活動を推進するため、「深谷市子ども読書活動推進計画」を策定した。また、ブックスタート(4か月児の保護者への絵本の紹介、読み聞かせ)、おはなし会、えいが会、講演会、講座、夏季企画展、文学歴史散歩、朝の読書及び読み聞かせボランティア初心者講座等の自主事業を行った。 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・利用者へ快適な環境を提供するため、老朽化した外壁雨漏修繕(川本館)、開架室空調機修繕(花園館)、2階洗面台下扉交換(深谷館)、窓ガラス修繕(深谷館)等を行った。
-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	-------------------------------------------------------------------------------

課題	子どもの読書活動の推進では、(仮称)子ども読書活動推進協議会を設置することが重要であり、読書に親しむ環境の充実並びに家庭、地域、図書館及び学校が連携しての推進等の視点に立った施策の取り組みが求められる。
-----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価コメント	・「深谷市子ども読書活動推進計画」の策定について、子どもの読書活動の現状を把握するため、「子ども読書活動のアンケート」を市内小・中学校の児童・生徒並びに幼稚園・保育園の保護者及び幼稚園・保育園を対象に行い、計画づくりに活かした。 ・図書館の整備・充実については、上記実績のとおり、ほぼ計画どおり進めることができた。また、年間貸出点数も平成24年度実績では694,783点で平成22年度から増加している。ただし、子どもの読書活動の推進にあたり、計画策定後の次のステップとしての推進体制づくりが課題であることから、総合評価は「A」とする。
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

意見・提言	・市独自に行っているブックスタートは、素晴らしい取組である。 ・窓口業務については、民間委託の導入により市民の利便性が向上しており評価できる。
--------------	----------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	読書推進事業	担当課	図書館												
概要	子どもたちの読書活動を支援するため、「子ども読書活動推進計画」を策定する。														
平成24年度 の実績	「深谷市子ども読書活動推進計画」の策定														
	<p>【計画策定の経緯】</p> <p>平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、これまでも、市において子どもたちの読書活動を推進していたが、更なる推進を図っていくために平成25年3月に「深谷市子ども読書活動推進計画」を策定し、4月にホームページ等で市民へ公表した。</p> <p>【策定までの取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月5日～3月1日(全4回)、計画策定委員会を開催。 ・9月末～10月上旬、市内小・中学校の児童生徒並びに幼稚園・保育園の保護者及び幼稚園・保育園を対象に「子ども読書活動のアンケート」を実施して、読書活動の現状を把握した。 ・2月20日～26日、パブリックコメントを実施 ・3月12日、教育委員会へ報告 ・3月25日、議会全員協議会へ報告 														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブックスタート参加人数 (絵本の読み聞かせと紹介)</td> <td>1,055組</td> <td>4か月児健診時に行っている。乳幼児期からの読書の重要性を保護者に伝える良い機会である。</td> </tr> <tr> <td>おはなし会(えいが会を含む)参加人数</td> <td>1,656人</td> <td>今後は、開催日時等を見直し、参加者のさらなる増加を図りたい。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	ブックスタート参加人数 (絵本の読み聞かせと紹介)	1,055組	4か月児健診時に行っている。乳幼児期からの読書の重要性を保護者に伝える良い機会である。	おはなし会(えいが会を含む)参加人数	1,656人	今後は、開催日時等を見直し、参加者のさらなる増加を図りたい。			
	指標名	実績値	指標別コメント												
ブックスタート参加人数 (絵本の読み聞かせと紹介)	1,055組	4か月児健診時に行っている。乳幼児期からの読書の重要性を保護者に伝える良い機会である。													
おはなし会(えいが会を含む)参加人数	1,656人	今後は、開催日時等を見直し、参加者のさらなる増加を図りたい。													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ブックスタートでは、子どもが最初に読書の楽しさを知る場としての家庭において、親と子が一緒に本に親しめ、楽しむことができるような環境づくりに努めた。</td> </tr> </tbody> </table>			評価区分	評価コメント	1	ブックスタートでは、子どもが最初に読書の楽しさを知る場としての家庭において、親と子が一緒に本に親しめ、楽しむことができるような環境づくりに努めた。									
評価区分	評価コメント														
1	ブックスタートでは、子どもが最初に読書の楽しさを知る場としての家庭において、親と子が一緒に本に親しめ、楽しむことができるような環境づくりに努めた。														
担当課 評価	<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>														

施策名		渋沢栄一翁の顕彰				点検評価表 作成課	生涯学習課	
施策の方向性		○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信します。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進します。						
施策に関連する 主な取組		○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信						
		○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用						
指標名		渋沢栄一ゆかりの施設見学者数						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	1年間における誠之堂・清風亭 及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名					
		現状値 (平成22年度)		15,000名	➡	目標値 (平成29年度)		18,000名
平成24年度 重点施策	○渋沢栄一翁顕彰事業							
平成24年度 実績	○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ・栄一塾を開催し、併せてボランティアの養成を図った。参加者:延べ125名 ・渋沢栄一賞表彰式を埼玉県、(公財)渋沢栄一記念財団と共催した。 受賞者2名 :池田 弘 (株)アルビレックス新潟取締役会長 金井昭雄 (株)富士メガネ代表取締役 ○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用 ・渋沢栄一ゆかりの史跡めぐりを実施し、旧渋沢邸「中の家」、「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」 のスタンプラリーや臨時公開等を行った。参加者:1,106名							
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題	旧渋沢邸「中の家」及び周辺施設の整備活用計画策定を行う。							
評価コメント	栄一塾、史跡めぐり等の顕彰事業に市民が参加することにより、渋沢栄一翁が考え実践した思想 や業績について周知することができた。郷土の偉人に注目が集まる中、更に効果的で持続性のある 顕彰事業を行っていく必要がある。また、施設見学者数は、平成23年度と比較して24年度は減 少したが、23年度に実施された渋沢栄一没後80周年事業で多くの来場者が訪れたことに伴う影 響と思われる。今後、整備活用計画を策定し、多くの見学者が訪れる魅力ある施設として整備を 図っていく。以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言	・渋沢栄一翁の功績を市内外に広める取組が積極的に行われていることが評価できる。							

重点施策評価表

重点施策名		担当課	生涯学習課
<p>概要</p> <p>わが国の近代経済の基礎を築いた渋沢栄一翁の事績について理解を深めることができるよう「栄一塾」を開催します。併せて、ボランティアの養成も行います。</p>			
<p>平成24年度の実績</p>	<p>・栄一塾を開催し、併せてボランティアの養成を図った。参加者:延べ125名</p> <p>・渋沢栄一賞表彰式を埼玉県、(公財)渋沢栄一記念財団と共催した。 受賞者2名 : 池田 弘 (株)アルビレックス新潟取締役会長 金井昭雄 (株)富士メガネ代表取締役</p> <p>・渋沢栄一ゆかりの史跡めぐりを実施し、旧渋沢邸「中の家」、「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」のスタンプラリーや臨時公開等を行った。参加者:1,106名</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	渋沢栄一翁顕彰事業の実施回数	5回	栄一塾、史跡めぐりやパネル展等の渋沢栄一翁顕彰事業を実施した。
	渋沢栄一翁顕彰事業への参加者数	1,231名	市民が顕彰事業に参加することにより、渋沢栄一が考え実践した思想や業績について周知することができた。
<p>担当課評価</p>	評価区分	評価コメント	
	3	渋沢栄一等の偉人に注目が集まる中、更に効果的で持続性のある顕彰事業を行っていく必要がある。	
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

施策名		伝統文化の保存・継承と活用						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じます。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化のすばらしさを伝えていきます。							
施策に関連する 主な取組		○文化財の調査、保護、管理と活用				○文化財保護思想の高揚			
		○埋蔵文化財の保護、保存							
		○民俗芸能の保存と継承							
		○文化財施設の整備・活用							
指標名		普及公開事業数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回						
		現状値 (平成23年度)		10回	→		目標値 (平成29年度)		12回

平成24年度 重点施策	○島山重忠顕彰事業	
平成24年度 実績	○文化財の調査、保護、管理と活用 ・古文書の調査を行った。 ・歴史講座を開催した。 ○埋蔵文化財の保護、保存 ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査・発掘調査を行った。 ・保存目的の発掘調査を行った。 ○民俗芸能の保存と継承 ・無形民俗文化財の記録保存を行った。 ○文化財施設の整備・活用 ・川本出土文化財管理センターにて企画展を行った。 ・旧煉瓦製造施設の臨時公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設旧変電室保存修理工事(災害復旧)を実施した。 ○文化財保護思想の高揚 ・島山重忠顕彰事業として講演会、史跡めぐり、パネル展、企画展を開催した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	これまで通り、開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を維持していくこと、(仮称)論語の里整備活用計画、旧煉瓦製造施設保存活用計画策定を進め、文化財等の整備と一体的な活用について方針を定めることが必要である。また、幡羅遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。	
評価コメント	・開発に伴う確認調査、発掘調査等の対応は円滑なものであった。また、市民が文化財を身近に感じられる事業を今後も工夫しながら実施していくことが必要である。 ・島山重忠顕彰事業に市民が参加することにより、島山重忠の思想や業績について周知することができた。 ・成果指標では、講演会・展覧会の開催数が平成23年度より1件増加した。内容的には、島山重忠に焦点を当てた催しを大々的に行い、また埋蔵文化財、古文書、民具といった幅広いテーマで事業を実施した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標である講演会等の開催数が増加し、各回の取組が質の高いものとなっており評価できる。
--------------	-----------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	畠山重忠顕彰事業		担当課	生涯学習課
概要	武蔵武士畠山重忠の活躍をわかりやすく市民に伝えることができるよう、講演会や企画展示などの事業を実施する。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会「秩父平氏畠山氏の成立と展開」を開催した。(参加者:159名) ・畠山重忠ゆかりの史跡めぐりを実施した。(参加者:330名) ・企画展「畠山重忠と武蔵武士」を開催した。(参加者:556名) ・川本地区の歴史紹介等のパネル展を開催した。(参加者:411名) ・畠山重忠公史跡公園にて郷土芸能奉納を行った。(参加者:87名) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	畠山重忠顕彰事業への参加者数	1,543名	市民が顕彰事業に参加することにより、畠山重忠の思想や業績について周知することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	効果的で持続性のある顕彰事業を行っていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		文化・芸術活動の活性化						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充します。 ○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行います。 ○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進めます。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図ります。							
施策に関連する 主な取組		○文化・芸術活動の推進				○地域ゆかりの文化資源の活用			
		○地域における文化活動の連携と推進							
		○文化団体の育成							
		○美術品の収蔵・展示公開							
指標名		文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客からアンケートを行い、「良い」と回答した割合	80%	97%						
		現状値 (平成23年度)		80%	→	目標値 (平成29年度)		85%以上	

平成24年度 重点施策	○文化振興事業	
平成24年度 実績	○文化・芸術活動の推進 ・スクールライブショーをNHKと共催した。ショーの様子は、NHKEテレビで放送された。 ・スクールライブショーやアーティスト倶楽部では書道パフォーマンスという新しい分野に取り組む機会が設けられ、新しい深谷の文化芸術創出に貢献した。 ○地域における文化活動の連携と推進 ・NPOと協働し、優秀映画鑑賞事業の開催を行った。 ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。 ○美術品の収蔵・展示公開 ・企画展「このひとをしっていますか？」と題した深谷市にゆかりのある人々の展示会を開催した。市内でも今ではあまり語られる機会が少ない重要な活躍をした人たちに注目をして紹介した。 ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・文化遺産コンサートを開催した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	市全体の文化振興の活性化を図るために、多くの市内の文化芸術団体との協働を検討しながら、コンサート、企画展示等をコンスタントに計画・実行していき、新たな文化芸術への取り組みを行うことが必要である。	
評価コメント	文化・芸術活動の振興については、コンサート、企画展示など幅広い分野にわたって事業を実施し、成果指標では、観客へのアンケートでも「良い」と回答した方が97%であった。また、NPOや文化団体と協働や、特に小・中学生を対象にして文化・芸術的な体験を行う事業への取組は評価できる。今後も各年代層への活動の裾野を広げる必要がある。以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・成果指標については、1,471名の参加者のうち97%が良いと回答したということで、素晴らしい満足度だと評価できる。 ・アーティスト倶楽部で書道パフォーマンスに取り組むなど、新たな試みをしており評価できる。
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	文化振興事業		担当課	生涯学習課
概要	花園文化会館アドニスの開館20周年にあたり、NHKの全国公開番組収録や地域住民の文化の振興に資する目的のコンサートの開催等を実施する。			
平成24年度 の実績	NHKEテレのスクールライブショーや文化遺産コンサートを開催した。特にスクールライブショーやアーティスト倶楽部では書道パフォーマンスという新しい分野に取り組む機会が設けられ、新しい深谷の文化芸術創出に貢献できたものと考えられる。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	文化振興事業数	4事業	例年通り行った。	
	文化振興事業参加者数	1,471名	次代を担う芸術事業が採択にならず参加者数が減少した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民のニーズを考えながらコンサート、企画展示を実施することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備		点検評価表 作成課		生涯学習課		
施策の方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。						
施策に関連する 主な取組		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成						
指標名		社会体育施設における利用者数						
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名					
		現状値 (平成22年度)		374,462名		➡		目標値 (平成29年度)

平成24年度 重点施策	○社会体育施設における受付時間の拡大	
平成24年度 実績	○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ・受付時間を平日午後8:00まで、休日(土・日・祝日)は午後5:15まで受付時間の拡大を行った。 平成23年度利用者実績 343,112名 平成24年度利用者実績 366,840名(23,728名増) ・川本グラウンド・ゴルフ場倉庫建設工事設計業務委託の実施 ・市民体育館照明器具等耐震対策工事の実施 ・施設の不具合に伴う修繕の実施 深谷市民体育館:市民体育館照明器具等耐震対策工事 深谷市総合体育館:給水設備修繕、排煙オペレーター修繕、クーリングタワー修繕 ○指導者の養成 ・スポーツ少年団認定員研修会を開催した。(参加者:26名)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	施設の老朽化に伴う破損箇所等が年々増加し、また、修繕の規模も大きくなってきており、修繕費用は多額になってきている。	
評価コメント	年間利用者数は、平成22年度から23年度にかけては減少したが、23年度から24年度にかけては受付時間を拡大したこともあり増加に転じることができた。また、施設の老朽化に伴う修繕も増加してきたが、適切に対応できたため、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・施設の年間利用者数は、平成23年度に比べて増加しており評価できる。 ・利用者の立場に立って施設の受付時間を拡大したことが評価できる。 ・施設の修繕は、引き続き適切に対応してほしい。
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

重点施策評価表

重点施策名	社会体育施設における受付時間の拡大		担当課	生涯学習課
概要	利用者の利便性向上のため、社会体育施設の受付時間の拡大を図る。			
平成24年度 の実績	・公民館における受付時間の拡大 平日:午前8:30から午後5:00 → 午前8:30から午後8:00 休日:受付をしていなかった。 → 午前8:30から午後5:15 (※休日とは、土曜・日曜・祝日) 平成23年度利用者実績 343,112名 平成24年度利用者実績 366,840名(23,728名増)			
	指標名		実績値	指標別コメント
	社会体育施設における利用者数		366,840名	利用者の利便性が図れたことで、施設利用者が昨年(343,112名)と比較し増加した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	・施設の受付時間を拡大したことで、利用者の利便性が向上したと考えられる。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化						点検評価表 作成課	生涯学習課
施策の方向性		○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。							
施策に関連する主な取組		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化							
指標名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団並びに市が主催した大会・教室の年間参加者数	28,322名	30,688名						
		現状値 (平成22年度)		21,702名		→		目標値 (平成29年度)	23,000名
平成24年度 重点施策	○スポーツ教室・イベント開催事業								
平成24年度 実績	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・「第7回ふかやシティハーフマラソン」を開催した。 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会・レクリエーション協会・スポーツ少年団に加盟している団体主催の各種大会等に対し、市民へ広報及びホームページを活用した情報提供を行うなどの支援を行った。 ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・ランニング講習会、ウォーキング講習会、ストレッチ講習会を実施した。								
総合評価	S	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							
課題	多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成し、活用を図っていく必要があるが、指導者の絶対数が不足している状況となっている。								
評価コメント	本市の代表的な事業である「第7回ふかやシティハーフマラソン」を開催し、全国から5,300名を超える参加者があった。悪天候(強風)にみまわれたが、大きなトラブル等もなく円滑に開催できた。成果指標である「体育協会をはじめとする各種団体及び市が主催した大会・教室の年間参加者数」についても、前年度と比較し増加したことから、総合評価は「S」とする。								
意見・提言	・市等が主催した大会・教室の参加者数は、年々順調に増えており評価できる。 ・参加者の安全等の配慮から「ふかやシティハーフマラソン」に定員を設けていることが評価できる。								

重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習課
概要	全国のランナーを対象とし、市民がスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加する機会の充実を図るため、ふかやシティハーフマラソンを開催する。			
平成24年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回ふかやシティハーフマラソンを実施 5,374名 ・体育協会(所属団体)主催大会 12,468名 ・レクリエーション協会(所属団体)主催大会 3,293名 ・スポーツ少年団(所属団体)主催大会 8,985名 ・市民軽スポーツ教室、ランニング講習会、 ウォーキング講習会、ストレッチ講習会 568名 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、各種教室、講習会年間参加人数	30,688名	各種大会、教室等の参加人数が増加した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	第7回ふかやシティハーフマラソンを開催し、前回大会より100名を超える大会参加者があった。体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団の3団体等主催による大会、教室等の参加人数も増加した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成25年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成24年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、6施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）、19施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と、25施策すべてが、「ほぼ計画通りに進んでいる」以上の評価とすることができました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

益田 裕充	群馬大学教授、同大学院教授
倉上 武雄	深谷市社会教育委員会議議長

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I－(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	S	子育て広場の実施について評価されましたが、幼稚園の施設・設備面の充実が課題であると指摘されました。	4
I－(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	学校教育課をはじめ各小・中学校の先生方のきめ細やかな指導や児童生徒の学力向上にむけた多彩な取組が評価されました。	6
I－(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	学級担任とALTの指導が評価されましたが、クーリングによるALTの不在期間が課題として指摘されました。	10
I－(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	校務支援システムの導入及び小学校理科支援員の市費配置が評価されました。	14
I－(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	社会体験チャレンジの実施学年の変更及び小中一貫教育のカリキュラムなど市独自の取組の充実が評価されました。	16
I－(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	各学校への巡回相談や学級学校支援相談など市の特別支援教育の体制は他市に比べて非常に進んでいると評価されました。	18
II－(1) まごころと思いをやりをはぐくむ教育の推進	A	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加及び市独自の「渋沢栄一こころざし読本」の作成など心の教育の充実が評価されました。	20
II－(2) いじめ・不登校の防止	S	不登校児童生徒の割合の減少及び学校総合支援員の配置が評価されました。	22
II－(3) 生徒指導の充実	S	児童生徒の暴力行為の発生件数の減少や市独自のスクールライフサポーターの配置について評価されました。	24
II－(4) 人権を尊重した教育の推進	A	人権教育が学校に定着し実を結んでいることが評価されました。	26
II－(5) 健康の保持増進	A	朝食を毎日必ず食べる児童生徒の割合が高い数値を維持している点を評価されました。	28
II－(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	外部指導者の活用が評価されました。新体力テストの結果における下位ランクの児童生徒への対応の必要性が指摘されました。	30
III－(1) 信頼される教職員の育成	A	テーマ別に教職員研修を実施し、指導力向上を図っていることが評価されました。今後に向けた学校の組織力のより一層の充実が課題として指摘されました。	32

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
Ⅲ－(2) 子どもたちの安心・安全 の確保	S	災害に強い情報基盤の導入、緊急地震速報を活用した避難訓練の実施及びスクールガードリーダーの充実が評価されました。	34
Ⅲ－(3) 学習環境の整備・充実	S	小・中学校の耐震化、普通教室へのエアコンの設置など教育環境の計画的な整備が評価されました。	36
Ⅳ－(1) 家庭の教育力の向上	A	親の学習についての教育研究所などの人的資源の活用及び親の学習や家庭教育学級への参加率の向上が課題として指摘されました。	38
Ⅳ－(2) 地域の教育力の向上	A	がんばル〜ムの参加者減少対策の検討、教職員間における学校応援団についての情報不足が課題として指摘されました。	40
Ⅴ－(1) 学習機会の提供と学習 活動の支援	A	ふかや市民大学について満足した受講生の割合の増加を評価されましたが、ふかや市民大学の入学者定員の確実な確保が課題として指摘されました。	42
Ⅴ－(2) 活動施設の整備・充実	A	生涯学習活動施設の整備・充実は評価されましたが、公民館利用者数の確実な把握が課題として指摘されました。	44
Ⅴ－(3) 図書館の整備・充実	A	市独自にブックスタートに取り組んでいる点及び利用時間の拡大などにより市民の利便性が向上している点が評価されました。	46
Ⅵ－(1) 渋沢栄一翁の顕彰	A	渋沢栄一翁の功績を市内外に広める取組が評価されました。	48
Ⅵ－(2) 伝統文化の保存・継承と 活用	A	講演会等の開催数の増加及び各回の質の向上が評価されました。	50
Ⅵ－(3) 文化・芸術活動の活性化	A	アーティスト倶楽部における書道パフォーマンスなど新たな取組が評価されました。	52
Ⅶ－(1) スポーツ・レクリエーシ ョン活動の環境整備	A	社会体育施設の年間利用者数の増加及び社会体育施設の受付時間の拡大が評価されました。	54
Ⅶ－(2) スポーツ・レクリエーシ ョン活動の活性化	S	市等が主催した大会・教室の年間利用者数が増加している点及びふかやシティハーフマラソンに定員を設け参加者の安全等に配慮している点が評価されました。	56

立志と忠恕の深谷教育プラン【概要】

（深谷市教育振興基本計画）

計画期間 平成24年度～平成29年度

◆ 計画策定の趣旨

平成18年に教育基本法が改正され、国は教育の振興に関する計画である「教育振興基本計画」を平成20年に策定しました。また、地方公共団体にもこの計画の策定について努力義務が課され、埼玉県では平成21年に「埼玉県教育振興基本計画」を策定しています。

本市はこれまでも、深谷市総合振興計画に基づいて教育行政に関する施策を展開してきましたが、教育基本法の趣旨に鑑み、中・長期的視点から取り組むべき施策の体系を明らかにし、深谷市教育の進むべき方向を明確にするために「教育振興基本計画」を定めるものです。

◆ 計画の位置づけ

本計画は、国の教育振興基本計画及び埼玉県教育振興基本計画との整合性を図りつつ、教育基本法第17条第2項に基づいた、教育振興のための施策に関する基本的な計画です。

また、深谷市総合振興計画を踏まえた、教育行政分野における計画として位置づけます。

◆ 計画期間

平成24年度から平成29年度までの6年間とします。

◆ 基本理念

子どもたちの自立と成長を保障する「生きる力」をもった子どもたちを育て、また、市民一人一人の学びを通じた絆づくりと活力あるコミュニティを形成するため、郷土の偉人である渋沢栄一翁が生涯を通じて大切にした「立志の精神」と「忠恕のこころ」を受け継ぐ教育に取り組むことが重要であると考え、次の基本理念を掲げます。

「立志と忠恕の深谷教育」

こころざし

～ふるさとを愛し、夢をもち 志 高く生きる～

～立志（りっし）と忠恕（ちゅうじょ）～

立志は「夢をもち志高く生きること」を、忠恕は「まごころ・おもいやり」を意味することばで、洗足栄一翁が生涯貫いた思想であるといわれています。洗足栄一翁は経済人としての活動のほか、国際交流や社会福祉事業などにも生涯をかけて情熱を注ぎました。



◆ 基本方針

基本理念を踏まえ「市民一人一人が生涯にわたり学んでいく」上での施策を実施していくにあたって、次の5つの基本方針で取り組みます。

■ 学校教育の観点から

知：確かな学力をそだてる

徳：豊かな心をはぐくむ

■ 生涯学習の観点から

夢：夢を育てる

絆：絆を深める

◆ 基本目標と施策、主な取組

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえ、今後6年間（平成24年度～平成29年度）に取り組む教育施策の7つの基本目標と、その7つの目標にぶら下がる25の施策及び102の主な取組を次の施策体系のとおり設定し、計画を推進していきます。

推進にあたっては、深谷市の将来都市像「夢を育み明日に飛翔する 笑顔都市ふかや」の実現に向けて、関係機関、自治会など各種団体、各学校との連携を図り、全市的に取り組んでいきます。また、計画を効果的に、かつ着実に実施するために、PDCAサイクルに沿って行っていきます。

立志と忠恕の深谷教育プラン 施策体系

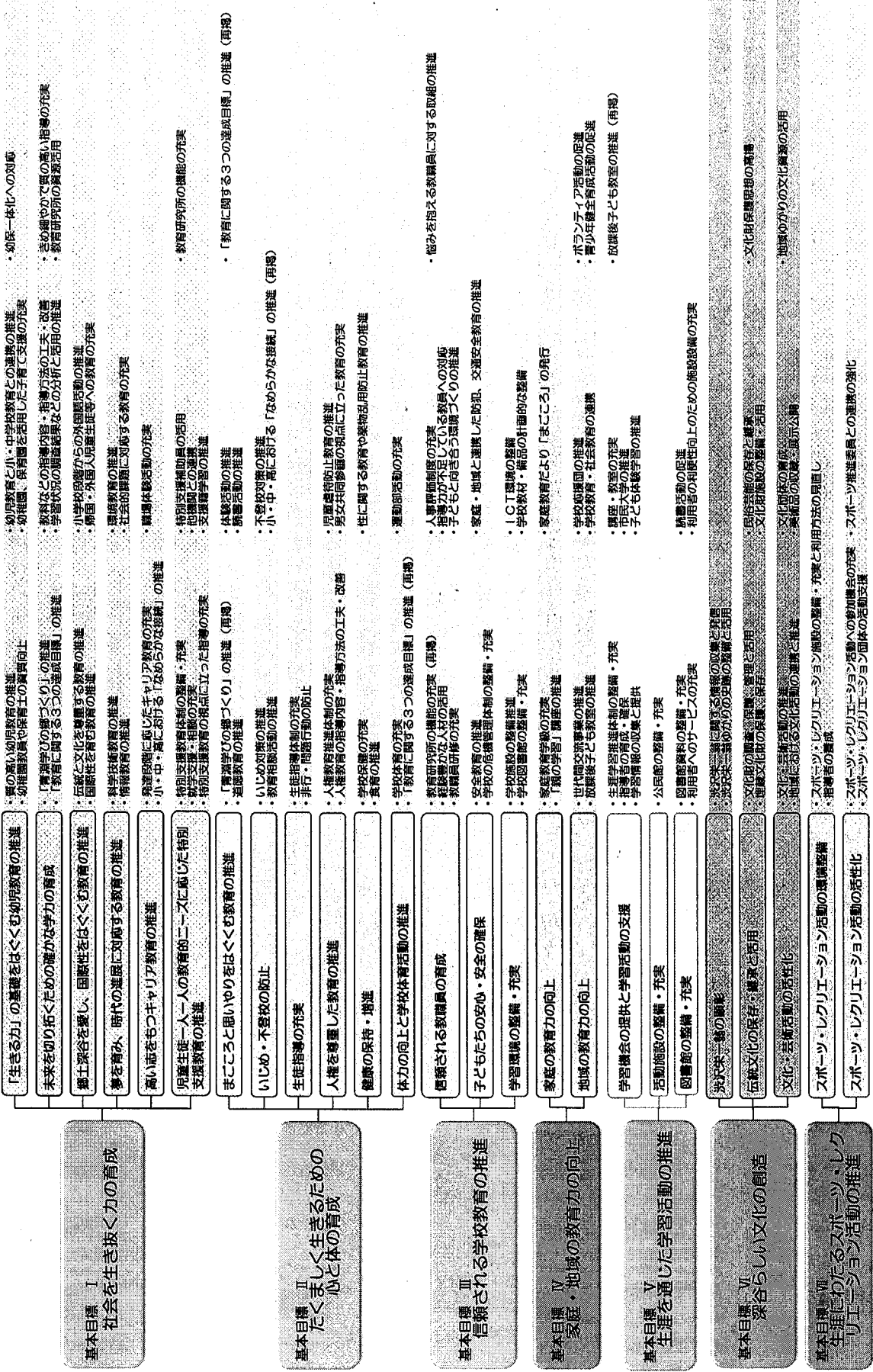
基本理念

「立志と忠恕の深谷教育」～心を育むを尊じ、徳をもち活躍する力を～

基本目標 (7)

施策 (25)

主な取組 (102)



《基本理念を踏まえた5つの基本方針》
5つの基本方針のもと、上記の各施策を推進していきます。

学校教育の観点から3つの基本方針→
生涯学習の観点から2つの基本方針→

知：確かな学力をそだてる
徳：豊かな心をほぐす

体：健康な体をめぐる

平成24年度 深谷市教育委員会重点施策

深谷市教育委員会は、深谷市教育振興基本計画の基本理念である

「立志と忠恕の深谷教育」

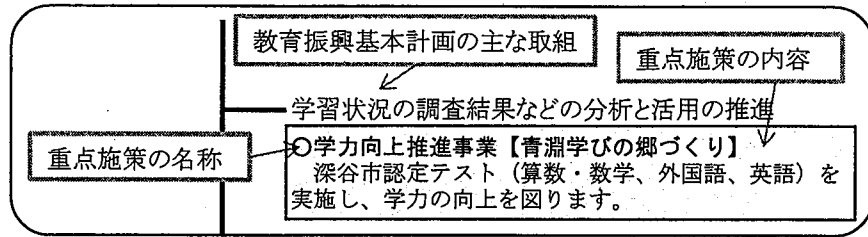
を踏まえ、7つの基本目標の施策ごとに重点的な取組を掲げ、教育行政を総合的に推進します。

基本目標

- 1 社会を生き抜く力の育成
- 2 たくましく生きるための心と体の育成
- 3 信頼される学校教育の推進
- 4 家庭・地域の教育力の向上
- 5 生涯を通じた学習活動の推進
- 6 深谷らしい文化の創造
- 7 生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動の推進

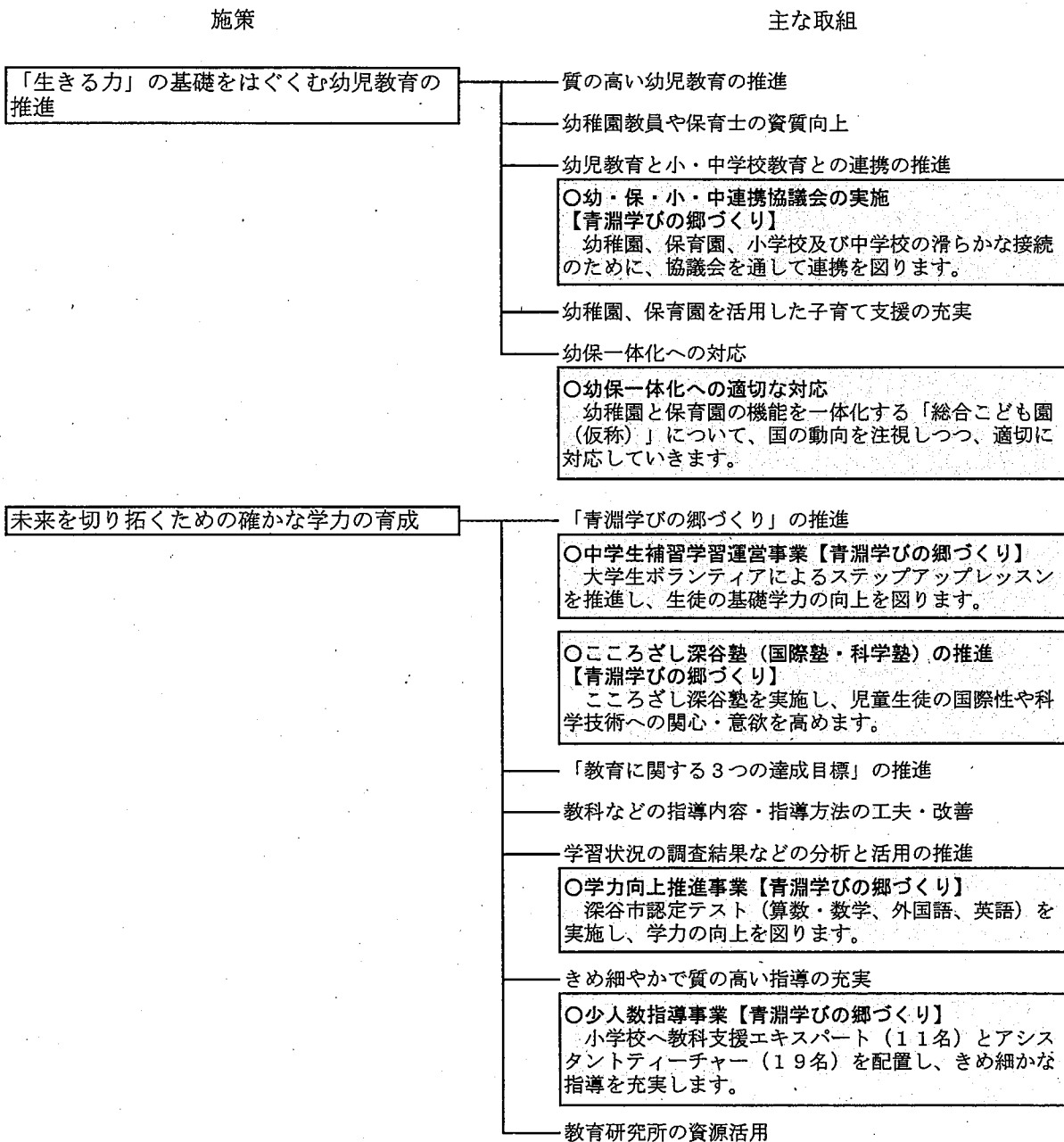
この施策は、深谷市教育振興基本計画のほか、深谷市総合振興計画、埼玉県教育行政重点施策等を踏まえ策定したものであり、実施にあたっては、関係機関、各種団体等と連携を図るとともに、広く市民の理解と協力を得ながら、積極的に推進いたします。

【重点施策の設定例】



深谷市教育振興基本計画 施策体系

I 社会を生き抜く力の育成



郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進

伝統と文化を尊重する教育の推進

国際性を育む教育の推進

○国際化教育推進事業【青淵学びの郷づくり】
全小・中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し英語教育等の充実を図ります。

小学校段階からの外国語活動の推進

○教育研究開発（英語教育関係）の推進
【青淵学びの郷づくり】
小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の国際性を育みます。

帰国・外国人児童生徒等への教育の充実

夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進

科学技術教育の推進

情報教育の推進

○小・中学校ICT整備事業【青淵学びの郷づくり】
ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力をの向上を図ります。

環境教育の推進

社会的課題に対応する教育の充実

高い志をもつキャリア教育の推進

発達段階に応じたキャリア教育の充実

○小・中学生のキャリア教育の充実
【青淵学びの郷づくり】
小学生の職業に触れる体験や中学生の職場体験などを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成します。

小・中・高における「なめらかな接続」の推進

職場体験活動の充実

児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

特別支援教育体制の整備・充実

○特別支援教育体制整備事業【青淵学びの郷づくり】
特別支援教育体制を整備し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進します。

就学支援・相談の充実

特別支援教育の視点に立った指導の充実

特別支援補助員の活用

他機関との連携

支援籍学習の推進

教育研究所の機能の充実

※【青淵学びの郷づくり】は、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ事業の総称です。

Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

施策

主な取組

まごころと思いをやりはぐくむ教育の推進

- 「青淵学びの郷づくり」の推進（再掲）
- 道徳教育の推進
 - まごころ先生の派遣【青淵学びの郷づくり】
深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、まごころ先生の派遣を推進します。
 - 渋沢栄一こころざし読本の活用【青淵学びの郷づくり】
栄一翁をはじめとした郷土の偉人の生き方等に触れ、子どもの心の芯を鍛えます。
- 体験活動の推進
- 読書活動の推進
- 「教育に関する3つの達成目標」の推進（再掲）

いじめ・不登校の防止

- いじめ対策の推進
- 教育相談活動の推進
- 不登校対策の推進
- 小・中・高における「なめらかな接続」の推進（再掲）
- 学校総合支援員配置事業【青淵学びの郷づくり】
全中学校に学校総合支援員を配置し、学校が抱える問題の解決に向けたアドバイスや児童・生徒の安全指導、中学生補習学習の支援等を行います。

生徒指導の充実

- 生徒指導体制の充実
- 非行・問題行動の防止
- SLS（スクールライフサポーター）の配置【青淵学びの郷づくり】
スクールライフサポーターなどの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図ります。

人権を尊重した教育の推進

- 人権教育推進体制の充実
- 人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善
 - 情報モラル教育の推進
児童生徒の正しい判断力を身につけるため、情報モラル教育を充実します。
 - 人権教育総合推進地域事業【青淵学びの郷づくり】
豊かな人間性や人権感覚をはぐくむために、人権教育総合推進地域事業を推進します。
- 児童虐待防止教育の推進
- 男女共同参画の視点に立った教育の充実

健康の保持・増進

学校保健の充実

食育の推進

○食育の推進と朝食欠食の解消
【青淵学びの郷づくり】

栄養教諭等を中心とした食育を推進します。

○小・中学校給食場建設事業

榛沢小学校、本郷小学校及び花園中学校の自校式給食場を建設するため、設計を行います。

性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進

体力の向上と学校体育活動の推進

学校体育の充実

○武道の充実【青淵学びの郷づくり】

教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進します。

○走力向上の取組の推進

50m走にチャレンジを推進したり、運動部活動の外部指導者を派遣するなど運動部活動の充実を図ります。

「教育に関する3つの達成目標」の推進（再掲）

運動部活動の充実

Ⅲ 信頼される学校教育の推進

施策

主な取組

信頼される教職員の育成

教育研究所の機能の充実（再掲）

経験豊かな人材の活用

教職員研修の充実

○教育研究所を核とした教員研修の充実

教育研究所協力員を中心とした研究、研修を充実させ、教員の指導力向上を図ります。

○学校問題サポートチームの設置

【青淵学びの郷づくり】

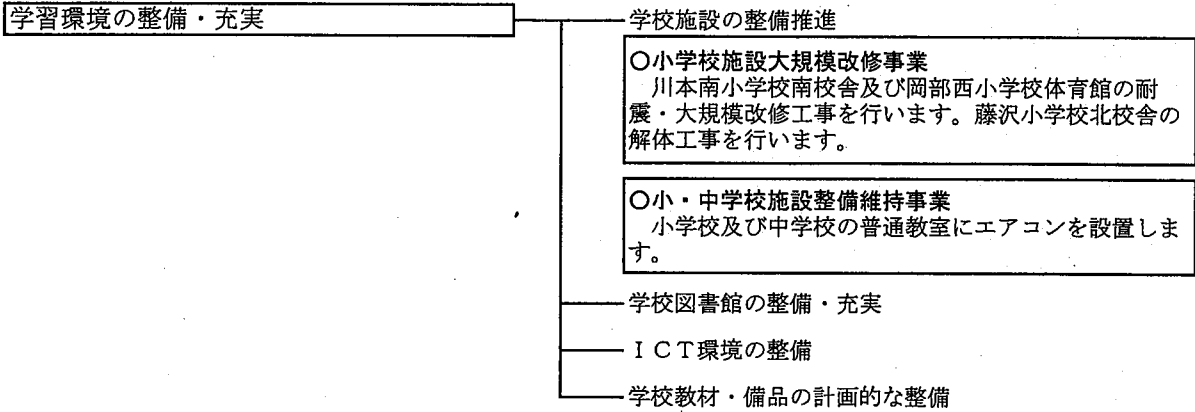
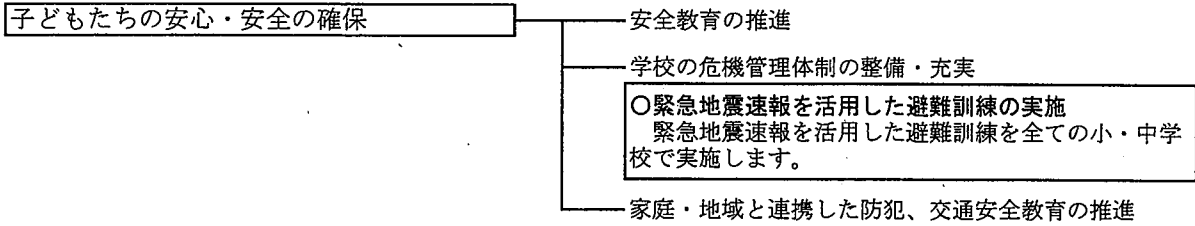
専門的な立場からの指導・助言・援助を行う学校問題サポートチームを設置し、子どもと向き合う時間を確保します。

人事評価制度の充実

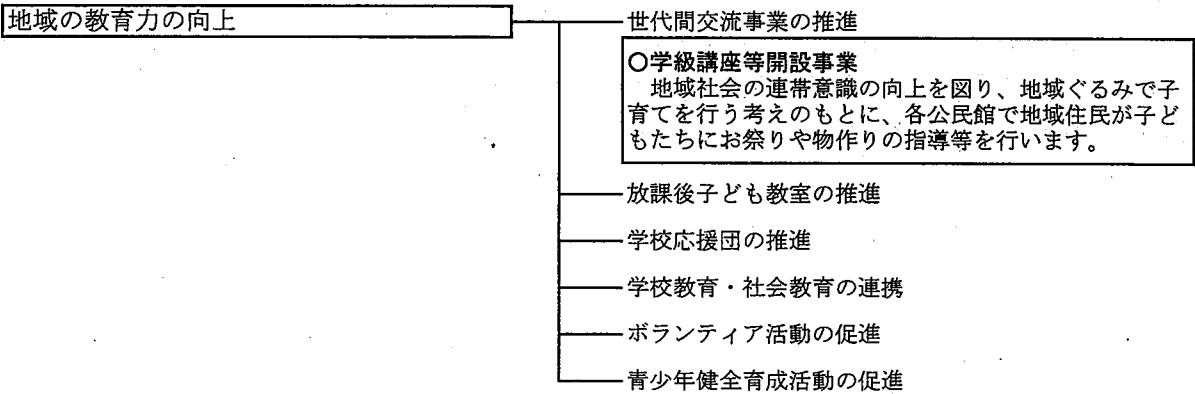
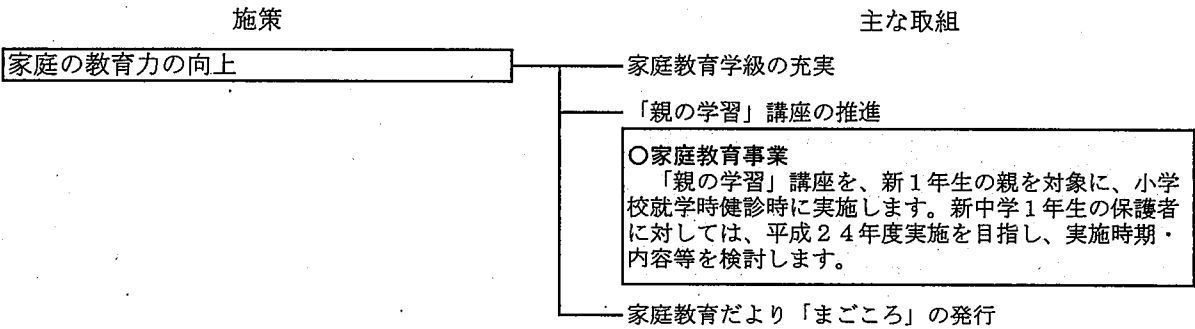
指導力が不足している教員への対応

子どもと向き合う環境づくりの推進

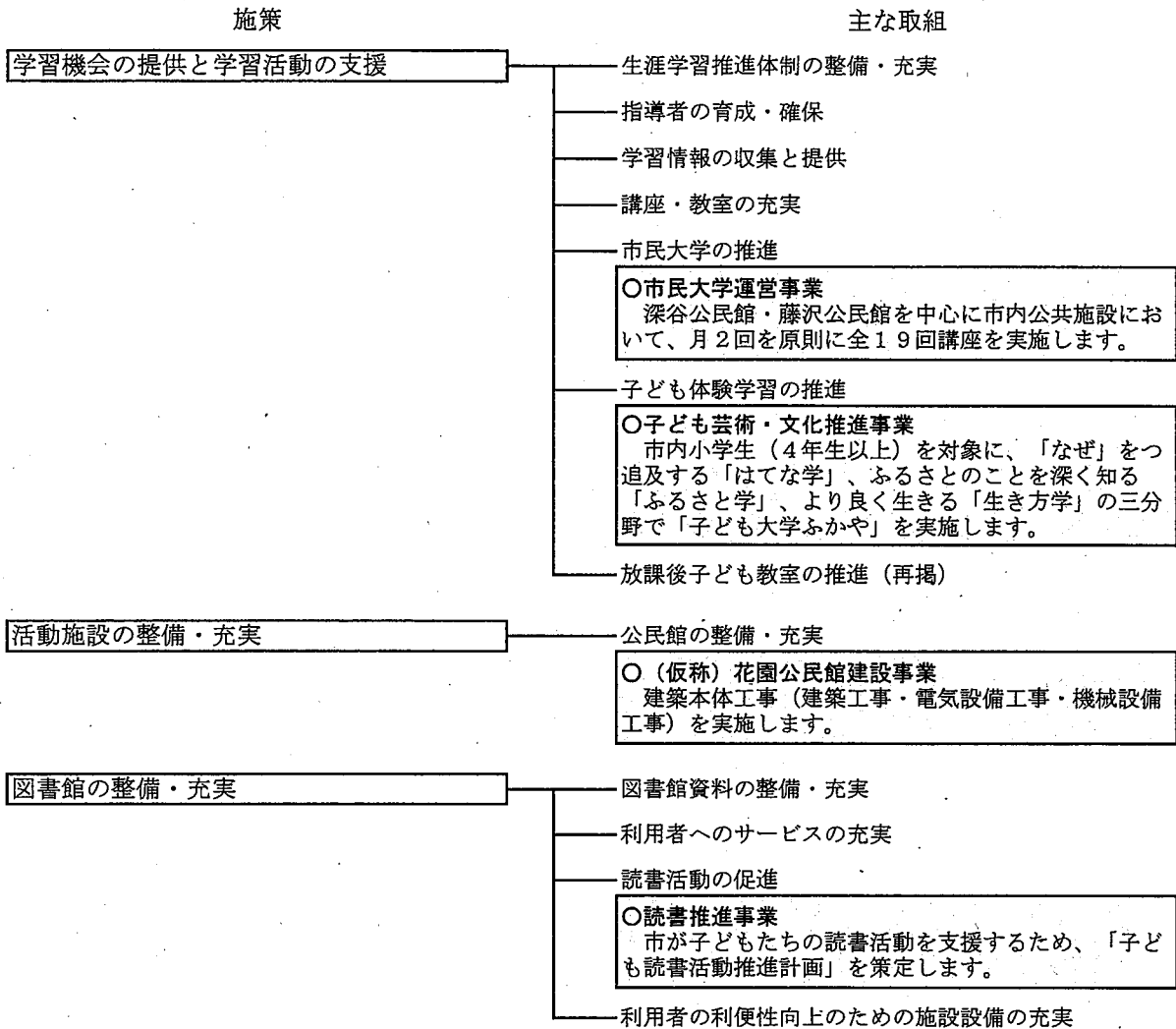
悩みを抱える教職員に対する取組の推進



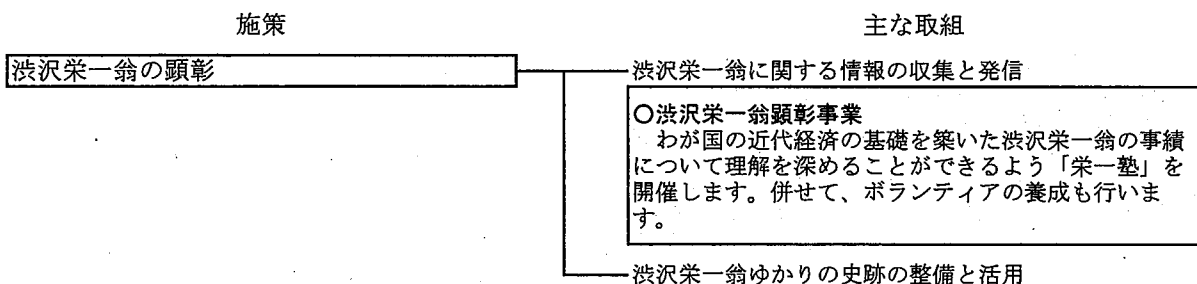
IV 家庭・地域の教育力の向上



V 生涯を通じた学習活動の推進



VI 深谷らしい文化の創造



伝統文化の保存・継承と活用

文化財の調査、保護、管理と活用

埋蔵文化財の保護、保存

民俗芸能の保存と継承

文化財施設の整備・活用

文化財保護思想の高揚

○畠山重忠顕彰事業

武蔵武士畠山重忠の活躍をわかりやすく市民に伝えることができるよう、講演会や企画展示などの事業を実施します。

文化・芸術活動の活性化

文化・芸術活動の推進

○文化振興事業

花園文化会館アドニスの開館20周年にあたり、NHKの全国公開番組収録や地域住民の文化の振興に資する目的のコンサートの開催等を実施します。

地域における文化活動の連携と推進

文化団体の育成

美術品の収蔵・展示公開

地域ゆかりの文化資源の活用

Ⅶ 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策

主な取組

スポーツ・レクリエーション活動の環境整備

スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し

○社会体育施設における受付時間の拡大

利用者の利便性向上のため、社会体育施設の受付時間の拡大を図ります。

指導者の養成

スポーツ・レクリエーション活動の活性化

スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実

○スポーツ教室・イベント開催事業

全国のランナーを対象とし、市民がスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加する機会の充実を図るため、ふかやシティハーフマラソンを開催します。

スポーツ・レクリエーション団体の活動支援

スポーツ推進委員との連携の強化

平成 25 年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発 行 平成 25 年 11 月

編 集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

